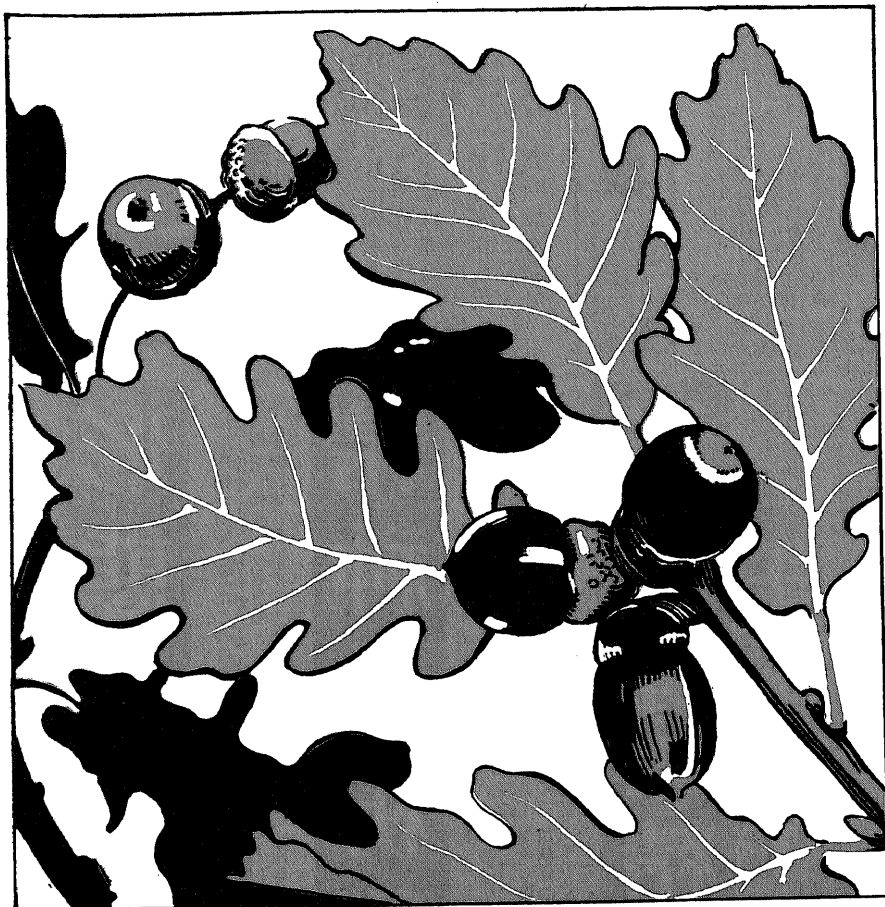


幼の育教

第 三 十 七 卷 二 月 號 第 二 號



東京女子高等師範學校
白木幼稚園協會

廣島文理科 大學 內科 應用心理研究會編

應用心理研究特輯號

應用心理學論文集

最新刊 菊判洋裝 全一冊紙數貳百八十頁 定價壹圓五錢 送料十四錢

心理學が醫學、文學、思想、教育、社會問題等、各方面に有する關聯の深さは驚くべきもので、最近のそれは學窓より街頭に出て直接生活に必須のものとして極めて實際的問題となつて來た。雜誌「應用心理研究」は之等の必要に基き一は諸大家が心血を注がれたる研究の發表機關として、他面一般社會の心理學應用の理解を深からしめんが爲創刊以來既に卷を増大號として公にする事の出來たのは小館の最も誇とする所である。

應用心理研究 現代應用心理學概觀

定價一圓廿錢 送料十四錢

內容目次
高橋 春藏 我國職業指導の現狀
中田 義友 新近犯罪心理學的情勢
山田 次郎 少年犯罪心理學の側面
小日向 定道 松井 俊小 我國應用心理學書目録
上野 義雄 古賀 行義 岸本 惣吉

發兌 東京市牛込區 辨天町一七四 振替東京三八四二七 中文館書店

廣島文理科 大學教授 文學博士 久保良英著

形態心理學

菊判洋裝全一冊・定價三圓五十錢・送料廿一錢
形態心理學の出現と共に心理學界は一大センセーションを捲き起して居る。彼等はグントやゼームスの如き巨匠に依りて建設された心理學から精神現象を徹底から覆さんと試み、在來の心理學とは全く異つた見地から精神現象を見直さんと企て、居る。今回形態心理學の紹介に逸早く努力しつゝありし久保博士に依り初めて本書が公にせられた。

精神分析學

菊判洋裝全一冊・定價四圓・送料二十一錢
心理學の分野に於ても我等に最も興味深きものは精神分析學である。のみならず之れが應用的方面に於ては殆んど無盡藏と謂ふべく少くとも形而上の諸科學の中に在つては第一位にある。最近斯學が教育界に瀰らした影響の甚大さは特筆すべきもので、性教育の根本的解決などに對しては精神分析法を他に替へて殆んど不可能とせられて居る。般心理學徒は勿論學校教育家他總ての文化人の必須を乞ふ。

實驗心理學精義

簡單篇 定價六圓八十錢 送料廿七錢
複雜篇 定價六圓 送料廿七錢

本書は實驗心理學が開拓した所又はせんとする所を広く各種の行動の項目の下にその研究の方法と結果とを詳述した。特に編纂の方法は博士の體裁に上斯學者の最も興味を失はぬ構造的實驗の兩者交互に叙述せられた。此の周到なる用意は如實に本書の上に表現す。如此本書は懇切丁寧に現代の實驗心理學の新研究を學べ一切發表したアツプツツデー！

保姆生徒募集

一、募集人員 五十名

一、出願期限 二月一日ヨリ三月二十日迄

規則及入學案内ハ二錢切手ヲ同封シテ請求セラル、カ又ハ山手線

目白驛前目白幼稚園ニ就キ承合セラレタシ

淀橋區下落合三丁目一、三八八

東京目白保姆學校

電話落合長崎二、五五九番

生徒募集

募集人員 七拾名

出願期限 自二月一日 至三月末日

○入學手續ヲ簡易ニ改メタリ

○入學試験ヲ要セズ 提出書類ニヨリ詮衡ノ上直チニ許可書ヲ送付ス

○無試験檢定ニヨリ保姆免許狀ニ受クル特典アリ

○寄宿舎ノ設備アリ

規則書入學案内ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市品川區大井原町五二〇八(省線大井町驛ヨリ城南バスニテ原停留場下車二分)

東京昭和保姆養成所

所 長 土 川 五 郎

顧問 兼 講師 東京女子高等師範教授 倉 橋 惣 三

生徒募集

募集人員 百 名
願書締切 三月末日

◇無試験檢定ニヨリ保姆免許狀ヲ受クル特典アリ

◇寄宿舎ノ設備アリ

東京市杉並區高圓寺三ノ二九八

東京保姆專修學校

刊増リカヒノモドコ★

クラブ・エリヌ

愛兒の情操と
創作教育を
昂揚する

世界一の大きな
絢爛豪華な
ヌリエ・ブック!

★附録・額繪(R R R)

二月十五日

發賣

金五十錢



・コドモノヒカリ

三月特大號

(五十錢・二月七日發表)

附録ヌリエ・武井武雄

(繪畫指導)

清水良雄先生

(童謡指導)

西條八十先生

(童話綴方指導)

小川未明先生

(東京・京橋)

子供研究社發行

新刊

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集

菊版三五〇頁

定價金壹圓五拾錢

郵稅

東京市內 金六錢

地方・北海道

臺灣・樺太 金拾錢

朝鮮・滿洲

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編『系統的保育案の實際』は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まごめにした書物がないかとの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話集として極めて御便利のものと思ひます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りいたゞけば幸いです。

三版

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價金壹圓

送料金四錢

- 一 保育案の實際は幼稚園必須の資料
- 一 東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考
- 一 待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勧む

發行所

日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町卅五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
振替東京一七二六六番

○定價及郵稅を添へ本會宛直接御註文下さい。

家庭に！
學校に！

1 子供の藝術陶冶に—童話と兒童劇が併て二冊宛函人になつて子供に安心して與へられる
2 家庭用の副讀本に—卓俗な讀物の多い中にお話と芝居とが教材と關連してゐる絶好の副讀本
3 各教科との連絡に—各學年各教科との連絡を持たせてあるから空疎なお話や劇とは全副讀本
4 學校の話を讀んで聞かせて効果的で學校の話方教育資料に又學校文庫に直ぐ活用出来る
5 學藝會用の臺本に—模範的な童話や兒童劇が各學年十五種ほどつゝあるから直ぐ活用出来る

〈特長〉

- ★各學年二冊
- ★一組函入
- ★何れも教科と連絡す
- ★各冊内容十四五種宛
- ★各冊共さし急が豊富
- ★著者は何れも權威揃
- ★學年別に自由分賣す

一年生の童話と兒童劇

一年生の童話 村岡 花子
一年生の兒童劇 栗原 登子

二年生の童話と兒童劇

二年生の童話 水谷まさる
二年生の兒童劇 篠崎徳太郎

三年生の童話と兒童劇

三年生の童話 澁澤 青花
三年生の兒童劇 伊達 豊

四年生の童話と兒童劇

四年生の童話 北川 千代
四年生の兒童劇 加藤 光

五年生の童話と兒童劇

五年生の童話 小出 正吾
五年生の兒童劇 齋田 喬

六年生の童話と兒童劇

六年生の童話 大木 雄二
六年生の兒童劇 小寺 融吉

學年別

童話と兒童劇

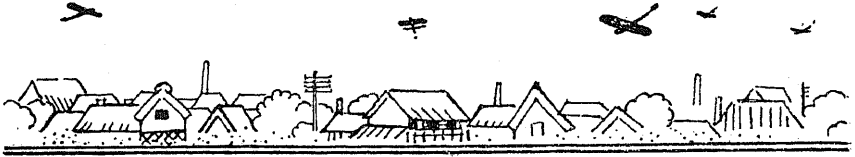
挿繪 初山 滋
齋田 義介
齋田 喬
假名文ハ振假名
さし及豊富

各學年共 二冊宛函入 各一圓五十錢 送各一圓

東京・麹町
下六番町
振替・東京
五九六〇〇

厚生閣

★童話を居芝紙★
★兒童話を居芝紙★
★如何に子供に話が好むか★
★如何に子供に劇が好むか★



號二第 育教の兒幼 卷七十三第

—(次 目)—

口繪	
服裝—保姆諸君と語る(二)	倉橋惣三(一)
幼稚園に於ける幼児の個人調査	伊藤堅逸(四)
イギリス保育發達史(二)	白根孝之(三)
鶏さんと英夫さんのお話	武田雪夫(函)
フレール先生の遺跡を訪ひて(二)	高市慶雄(毛)
春の歌	曾根保(罌)
おひな様	及川ふみ(丑)
ちんくこばかま	小泉八雲(酉)
幼き者を「ひきいだす」ころ	齋藤善太郎(空)
自他一如	大塚喜一(空)
誘導保育案の一例	富士見幼稚園(空)

始めて完成せる一人子研究の究果!! 一人子教育の示標

一人子の心理と教育

一人子の問題は單に一人子の問題ではなく、一人子を正しく理解し、正しく教へ導くことが、凡ゆる子供を教へ導く基準といつて過言ではあるまい。さうした場合にこの書の如く一人子を深く掘下げ、一人子を深く教へ導くことを得たことは、洵に近來の收穫にして、この書の出現が子供の研究と教育の上に最も深き一面を完成し得たといへるであらう。

★ 一般内容 ★

緒論

第一章 一人子の問題の發生

第二章 一人子研究の理論的意義

第三章 一人子研究の教育的意義

心理篇

第一章 心理學的研究の發生と發展

第二章 一人子の全體的特異性

一 性格的性質の發達條件

二 教育的過程から生ずる特性

三 教育要素の排除から起る特性

四 一般教育要素の特性

第三章 一人子の統計的特異

性

一 生活力とその背景

二 學業生活

三 社會生活

四 家庭的及社會的適應性

五 家庭の教育的態度

六 家庭の適應性

第四章 一人子の特異性の検討

一 健康の問題

二 知能と學業成績の問題

三 性格的問題

四 社會生活の問題

五 社會生活の問題

第五章 一人子は問題の子供か

第一章 一人子の教育に於ける教育篇

第二章 問題の發見

一 教育態度の問題

二 子供自身を活動せしめよ

三 獨立性の涵養

四 徳養訓練への發戒

五 訓練の確立

第三章 社會生活の問題

一 子供に對する社會生活の意義

二 如何にして社會生活の意義か

三 一人子：幼稚園

四 一人子：家庭

五 一人子：社會生活の問題

第四章 一人子の教育原理

一 一人子の教育と一般兒童の教育

恩賜財團愛育會
兒童教養相談所囑託

山下俊郎 先生著

小形四六判二二二頁

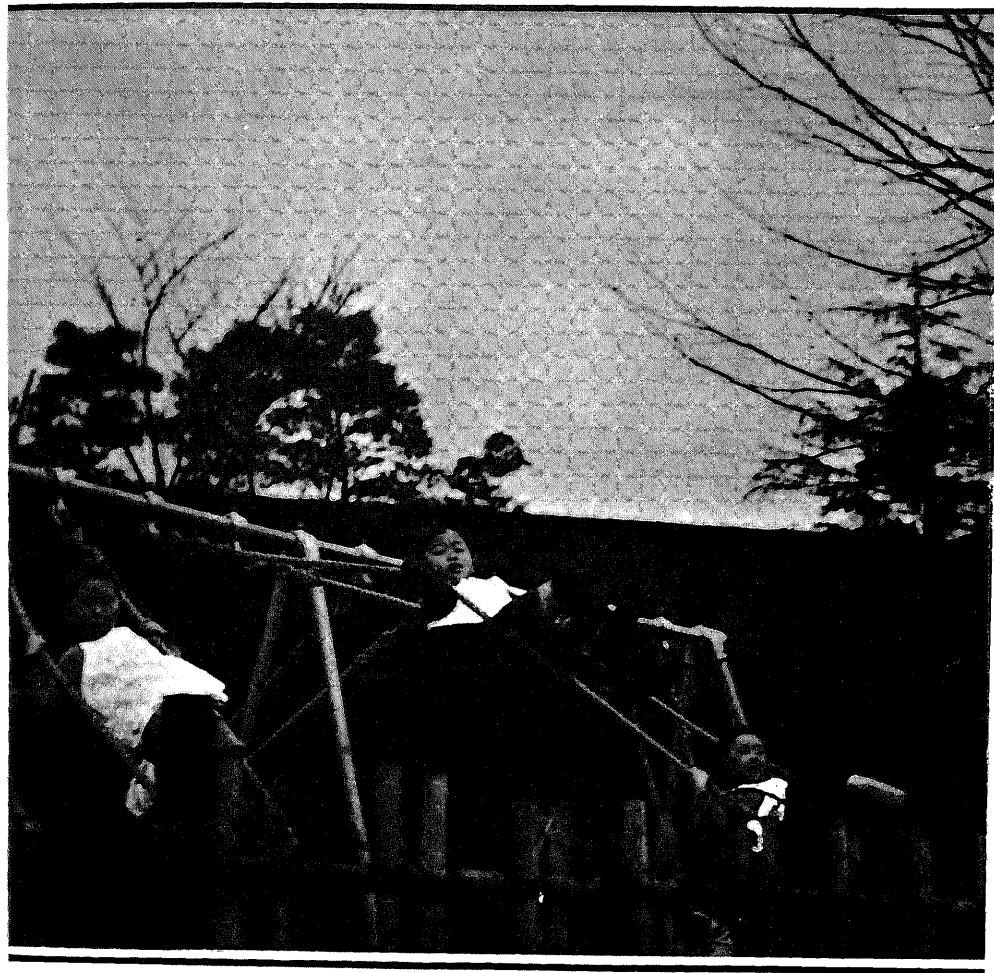
定價 五十錢

送料 十錢

東京・神田・駿河臺
刀江書院
電話 三三九一・八一七三
振替 東京 七一八番



前
> 向
& 女
0



春
風
を
切
る

附 屬 幼 稚 園

幼 兒 の 教 育

昭 和 二 十 二 年 二 月

服 装

——保姆諸君と語る—— (二)

倉 橋 惣 三

保姆諸君は御婦人である。その御婦人ミ服装に就て語るこゝは、あらゆる意味に於て最もむづかしいこゝである。或は紳士(即ち私)の作法でないかも知れない。それは皆さんの心に最も微妙に觸れるこゝだからである。従つて、うつかりしたこゝをいふミ、お氣にさわりさうなこゝだからである。お氣にさわらないまでも、お氣になさうなこゝだからである。少くも、「あなたの教養が足りない」ミいふよりは、「あなたの風がおかしい」ミいつた方が、何層倍か強くお氣にさわることであり、「互に修養に意を用るませう」ミいふよりも、「皆さん服装に氣をつけませう」ミいつた方が、その時から直ぐ氣苦勞をさせるこゝになり易いからである。兎に角く、へたに持ち出さない方がいゝ話題らしい。

氣にされるばかりではない。或は、袖を翻へして、「男の癖に女の服装のこゝなんか……」ミ、叱られるかも知れないし、笑はれるかも知れない。しかし、先づ充分御諒解を願つて置かなければならないのは、この話題の下に、男からの注文、殊に私(即

ち紳士の一人)の注文を貴女貴嬢に持ち出さうとじてゐるのでないことである。若し萬一さうだつたら、「貴君の好みなんか合つても合はなくても構はないですわ、ぞ、よ、ミ一言のミに斥けられても仕方がない。素より私にはそんな權利もない。併せて興味もない。天下の幼児保育者として皆さんを見るだけであり、それを要求するだけで、お召物の色合ひや繕柄や、乃至お着つけが、私の趣味に合ふや否やは、勿論大問題じやあない。

が、皆さん。皆さんは幼児の皆さんである。あんまり變つた風をして下さるミ、幼児がびつくりする。さうかするミ、氣の小さい子が、あなたその日のいでたちに驚いて、落ちついてその日の保育が受けられなかつたりする。私は、ただ、それが、そつと見るに見かねて、念のため、おそろく、御注意申上げて見るに他ならない。あなたのためミ言つて失禮なら、幼児のために。

但し、或る人々がいふやうに、幼稚園は仕事場だから、服装なんかさうでもいゝミいふのではない。幼稚園は、幼児には仕事場であることもあるかも知れないが、保母さんには決してたゞの仕事場なんていふ、單純にして殺風景なものではない。仕事ミは仕事である。幼稚園は保母さんのたゞ働くところではなくて、女性ミして生きるところである。従つて、服装だつて、働くのに便利ならそれだけでいゝミいつた勞働服では濟まされない。そこには感情がなければならぬ。感情は個性のあるところのみに伴ふ。すなはち、感情をもつ服装、個性のある服装でなければならぬ。

服装なんか構はない、さいふ言葉がある。服装に構ひ構ふて、明け暮れ服装にのみ心をやつしてゐるのに相對する豪語ミとしての言葉であらうが、構ふミ構はないミの間に、もう一つ、あたりまへのところがある筈である。構ひ過ぎるのが服装に着られてゐるのならば、構はな過ぎるのは服装を着てゐないのと同じである。簡單質素も粗野までいつては人間の服装の部にはいらぬ。粗野ほぎ子ぎものきらひなものはないであらう。その證據に、粗野な服装の先生の組の幼児は粗野な子になる。毎日、いやだ〜ミ思つてゐるからである。

ところで、それよりも多くこゝで問題になるのはおしやれの方である。

おしやれが問題になる點は、程度の強さ趣味の低さである。服装を問題とする以上、それに適當の意を拂ふさいふ意味で、ほんまうのおしやれには是認を表してゐる譯であるが、それは程度が先づ第一條件である。程度は何の程度か。羽織を二枚重ねる譯にもいかんし、帯を二本締めるこゝも出来ない。程度は自分の姿に氣のかけ方の程度である。明日の勤務のこゝよりも何を着んと思ひ煩つて(古い本の語ばかりあるおしやれ先生、保育室の硝子に映つす己が姿を花を見て(古い唄の句)幼児のこゝなんか忘れてゐるおしやれ先生、若し斯ういふ古い本や古い唄にあるやうな保姆さんがあつたら、幼児からは抗議を申し込まなければならぬ。「先生もう少し斯の道のこゝを考へて下さい。」「もうちつミ僕達のこゝを考へて下さい。」「お若いんだから御尤もご思ひますがね。」「それはく先生はおきれいでゐらつしやるんですけれどもね。等、等。

次に、趣味の低さに至つては、若しそれが多少でも問題になる程だつたら、幼児は抗議を申し込む前に、先づいやになつて仕舞ふであらう。うんざりして仕舞ふであらう。そして互にいひあふだらう。「やりきれないねえ。」「あれでいゝと思つてゐらつしやるんだらうか。」「さうかしてゐるね。」「幼稚園をきこだと思つてゐるんだらうねえ。」「幼稚園よりも往復の途の方を大事にしてゐらつしやるんだよ。」「あゝけばくしてゐては目がきらくして僕達注意がましまらないで困るよ。」「それより胸が悪くなるよ。」「あれがお前の先生かいつてお母さんが驚いてゐたよ。等、等。

そんなら、さういふ服装が趣味が低いのかミ問はれるミ、幼児は勿論、私にもよく分らない。更に元來趣味の低い御自身に分らないのも當然であるかもしれない。しかし、たゞ一つ私にいへるこゝは、自分よりも服装の方が先きに、又力強く、人に印象するやうな風は、服装本位の晴れの場でもない限り、常の生活ミしては明かに低趣味ださいふこゝである。自分を強めて目立たせやうとする程下品なこゝはない。

幼稚園に於ける幼児の個人調査

—一つの試み—

八王子幼稚園長 伊藤 堅 逸

個々の幼児を一層詳しく知るため、又幼稚園と家庭との協力を一層有意義なものとする爲めに私は昭和八年から本年（一年）迄四年間に亘り毎年一回宛幼児の個人調査を行つた。

此の四年間の経験によつて見るに、個々の幼児を知る上に於ても、家庭と幼稚園の協力と云ふ點に於ても甚だ有益なものがあつたやうに思ふ、故にこれをこゝに披露して一般の参考に供したいと思ふ。

先づ調査方法であるが、それについて私は一つの調査票を作つた。左に掲げたものは其調査票の實物である。

個人調査票

第	氏名	年齢	調査年月日	幼稚園			家庭		
				過度	普通	軽度	過度	普通	軽度
1	性質は素直ですか								
2	何か（手先のこと）したがりですか								
3	自分で出来ることは人手によらず大抵自分でしますか								
4	遊ぶ時には快活に遊びますか								

部 二 第										部						
9	8	7		6	5	4	3		2	1	10	9	8	7	6	5
幼稚園を缺席しがちですか	向ふ見ずの亂暴をすることがありますか	年よりもおくらせてゐますか	年よりもませてゐますか	人目を盗むやうな様子がありますか	そはくして落付がありませんか	遠慮屋さんで人の前に出るのをはづかしがりますか	よく泣きますか	氣は弱い方ですか	お友達をいぢめますか	意地つげりの方ですか(強情)	言葉の發音は普通ですか	物真似は普通に出來ますか	何かよく質問をしますか	リズムに合つた活動が出來ますか	お話を聞く時には落付いて聞いてゐますか	先生にはなつき易いですか(人に慣れ易いですか)

備考

10 物事に飽きつばい方ですか

調査種目は全部で二十であるがこれを二部に分ち、第一部の方には幼児に望ましい種目を並べ、第二部の方には餘り望ましくない種目を並べた。——(此の望ましいとか望ましくないとか云ふのは決して絶対の意味ではない)。そして何れも十種目づゝにしたのである。此の二十種目に限つた事、及びそれを十種づゝに分けたことについては別に深い理由があつたわけではない。併し調査には表からの調査と裏からの調査があるので其兩方面からの調査を取り交ぜたに過ぎない。勿論これについても研究するならば大部やかましい問題も生じて来るに相違ないが、今の所はそれをやかましいものとしないうで極めて簡単な意味で此の調査票が出来てゐるものと承知を願ひたい。十種づゝ二組にしたのは計算する場合の便利の爲であつて其他に理由はない。尤も如何に幼児は云へ、個人が此の二十種目によつて全部調査し得られるものではない。性格方面だけの調査にしても尠くも表裏各々五十種目は必要だと思ふ。それを僅かに二十種に限つたのであるから全體的には大した價値のある結果を見出すことの出来ないのは云ふまでもない。併したまひ全體的な調査價値を望まずとも、此れだけの種目があれば個々の幼児を部分的に觀察する資料を得ることは出来ると思ふ、そして種目を徒らに數多くしても調査が困難になるのみで實際には反つて役立たぬことゝなる恐れがある。

さてこれらの調査種目について家庭と幼稚園の兩方を調査するのであるが、何づれにも過度普通軽度の三段を設けて、其所に調査の結果を記入するやうにした。過度と云ふのは程度の過ぎたもので、例へば性質でも素直過ぎて困る云ふやうなものがある。然う云ふのを過度の段に記入する。普通と云ふのは説明するまでもなく普通に素直と云ふのである。輕

度と云ふのは幾らか素直だが未だ充分とは云へないものを云ふ。それで種目は皆質問の形になつてゐるからそれを一つづつ始めから順次に家庭では父母又は父母の何れかから、幼稚園では幼児に常に接してゐる受持の保姆に質問をかけてそれに對する返事を受けて「然り」又は「否」の符號を記入して行くのである。

所で此の調査で一番問題となるのは標準のないことである。「性質は素直ですか」と問ふたにしても客観的な何か標準がなければ結果が極めて曖昧であることとなる。成る程嚴密に云へば然うに違ひない。併し此の調査はそんな嚴密な意味の結果を求めたためではなく、一人の幼児について父母としては平常其幼児をきう見てゐるか、素直だか見てゐるか素直でないか見てゐるか、又幼稚園の保姆にしても同じくそうで、日頃此の兒は素直であるかと思つてゐるか、素直でないかと思つてゐるか、それだけのことを調べるなら此の調査の目的は達することになるのである。つまり繰り返して云ふなら父母なり保姆なりが平常日頃其兒をきう見てゐるか、其見てゐる所をそのまま調べることが出来ればそれでよいのである。だから或る意味に於ては此の調査は幼児そのものゝ調査であると同時に幼児の環境の調査とも云へるのである。

所で調査に當りて最も注意を要する點は父母なり保姆なりが幼児について深く考へ込まないやうにすることである。でないに平常の考へから遠く離れて望み通りの返事を得ることが出来なくなる。故に私自身が調査者となつて直接に調査に當り、幼児一人々々について家庭及び幼稚園の兩方から全く同じ方法で、各種目に對する極く單純な返事を求めるやうにした。其時例へば「性質は素直ですか」と問ふたに對し「然うですな〜」なき云ひながら考へ込んで返事を遅延するやうであれば其兒は既に普通素直とは云へない者と認めて直ぐ次ぎの項目に移つて問ふやうにした。だから全體の調査が大抵三四分の時間で充分である程調査は簡單に行はれたのである。

調査の方法についての説明はその位にしてこれより調査の結果が数字的にさうなつてゐるかを先づ表示しやうと思ふ、
 其前に調査人員について一言して置くのが順序であらう。

此の調査の對象となつたものは私の幼稚園の幼児で人員は昭和八年度に男十九人女二十五人計四十四人、九年度に男十三人女二十六人計三十九人、十年度に男十二人女十九人計三十一人十一年度に男十七人女十六人計三十三人であつて其延人員は男六十一人女八十六人計百四十七人である。人数は餘り多いは云へない。併し四年間に互る繼續的調査であるために、統計上に表はれる数字の上には又特別な意義があるやうに思ふのである。

では次に各種目の下に集まる数字を表にして掲げて見やう。本来なら各年度の調査を別々に表示するなら繼續的にな

部	第一							調査種目		
	8	7	6	5	4	3	2	1	幼稚園	家庭
何かよく質問をなすもの	11 18.03	54 88.52	54 88.52	47 77.05	55 90.16	51 83.61	36 59.02	52 85.28%	男	計
リズムに合つた活動が出来るもの	11 12.79	77 89.53	66 76.74	58 67.44	61 70.93	75 87.21	63 73.26	62 72.09%	女	計
お話を聞く時落付いて聞くもの	22	131 89.12	120 81.63	105	116	126	99	114 77.69%	男	計
先生になつき易いもの 人に慣れ易いもの （幼稚園） （家庭）	44 72.13	57 83.44	50 81.97	40 65.57	59 96.72	43 70.49	39 63.93	34 55.74%	男	計
遊ぶ時快活に遊ぶもの	63 73.26	79 81.86	70 81.40	64 74.42	80 93.02	54 62.79	73 84.88	48 55.81%	女	計
何か手先のことをしたがるもの	107	136 82.52	120 81.63	104	139	97	112	82 55.78%	男	計
自分のことを自分でするもの									女	計
性質が素直なもの									男	計

した此の調査の價値を示すに一層便利ではあるがそれは餘りに錯雜するのでこゝには四年間のものを纏めて見るこゝとする。

これを見るに「性質の素直なもの」は幼稚園と家庭との比較に於て家庭よりも幼稚園の方が多し。幼稚園では一一人であるが家庭では八二人である。これを以て見るに子供は家庭よりも幼稚園で多く素直である云ふことになる。家庭では多く我まが出て素直でないものでも幼稚園に來るに家庭

部		二										第	
10	9	8	7		6	5	4	3		2	1	10	9
物事に飽きつばいもの	幼稚園を缺席しがちなもの	向ふ見ずに亂暴するもの	年より遅れてゐるもの		人目を盗む様子のあるもの	それはくとして落付のないもの	遠慮屋さんで人前に出るのをはづかしがるもの	よく泣くもの		お友達をいぢめるもの	意地つ張りなもの	言葉の發音が普通なもの	物真似が普通に出来るもの
17 27.87	6 9.84	8 13.11	5 8.21		6 9.84	15 24.59	28 45.90	13 21.31	21 34.43	26 42.62	17 27.87	54 88.52	61 100
11 13.53	5 6.17	2 2.47	14 16.28		3 3.69	14 16.28	21 34.43	17 19.77	21 24.42	16 18.60	32 37.21	72 83.72	83 96.51
28	11	10	19		9 6.12	29	49	30	42	42	49 33.38	126 85.71	144
18 29.51	4 6.56	12 19.67	5 8.21		6 9.84	21 34.43	26 42.62	17 27.87	37 60.60	10 16.39	44 72.13	55 80.16	61 100
22 25.58	3 3.49	5 5.81	21 24.42		1 1.16	30 34.88	39 45.95	36 41.86	44 51.16	9 10.47	67 77.91	74 86.05	82 95.35
44	7	17	26		7	51	65	53	81	19	111 75.51	129 87.76	143

に居る時のやうに我まゝを出してゐられないので自然素直になるものが多いやうに思はれる。若し然うだますれば幼児は幼稚園ミ云ふ環境に於て素直であるこゝを學ぶのであるから此の意味に於ても幼稚園は幼児に取つて甚だ大切であるミ云ふこゝが出来。若しこれを男女別にして見るミ幼稚園では女よりも男の方に性質の素直のものが多。家庭では男女殆んど同數である。此れは果して何に基づいてゐるか其説はむづかしいが各年度について見るに十一年度を除いてはいつでも幼稚園では男の方に素直のものが多くなつてゐる。そして家庭では十一年度の外は殆んど同數である。

次ぎに「何か手先のこゝを常にしたがる者」は幼稚園よりも家庭の方が多くなつてゐる。これは幼稚園では友達が澤山あるので手工なきするよりか友達と一緒に遊ぶ方が面白いからであらう。特に男女を比較して見るミ幼稚園でも家庭でも男より女の方が遙かに多くなつてゐる。女兒が男兒よりも多く幼稚園のお仕事に興味あるこゝは一昨年(十年)一月號

に發表した統計によつて明かである。

「自分で出来るこゝを自分でする者」は家庭よりも幼稚園が多くなつてゐる。これは勿論幼稚園では一々幼児の世話をし
てやるものがないから、たゞ家庭で何か世話をして貰つてゐるものも幼稚園では止むを得ず自分のこゝは自分でする
やうになるのである。此の點も幼稚園は幼児の爲めに大切な環境である云へる。男女別にして見るに幼稚園では男より
女の方が多くなつてゐるが、家庭では女よりも男の方が多くなつてゐる。これも今直ちに説明をするこゝは出来ないが、
或は何か理由があるかも知れない。

次に「遊ぶ時快活に遊ぶもの」は幼稚園よりも家庭に多くなつてゐる。これは所謂内辨慶があるからで、幼児の性格に
よつて家庭では一人天下ではしやぎ廻つてゐても外に出て他の子供らの中にはいるに別人のやうなものがあるものがある
からである。又これは往々にしてある例であるが或る家庭では家庭外に子供を出さないで、家庭内でのみ子供を遊ばせて
置くのがある。然う云ふ家庭に育つた子供はさうしても社會心の發達が遅れてゐる。故に幼稚園に來ても然う云ふ子供は
他の子供と一緒になつて愉快に遊ぶこゝが出来ない。要するに幼児の社會心の發達が未だ充分でない云ふこゝが此の統
計的結果を生ぜしめた原因と見るべきである。故にこの點は幼稚園で充分注意して幼児の社會心の發達を促がすやうにし
なければならぬ。特に今迄家庭内だけで遊んでゐたやうな子供は先づ保姆が其子供の友達となり次第に他の子供と愉快に
遊ぶこゝが出来るやうに導いてやらねばならぬ。男女別にして見るに幼稚園でも家庭でも快活に遊ぶものは男の方が女よ
りも多くなつてゐる。

幼稚園で「先生になつき易い者」は女よりも男の方が多い。先生になつき易い性格は一般に人に馴れ易いのであるから家
庭では其方面から調べたのであるが、家庭では男よりも女の方が人に多く馴れ易いこゝになつてゐる。多分女の兒は家庭

を背景にしてゐる場合多く社會性を發揮する事が出来、男の兒は家庭外に於てより多く社會性の活動の機會を見出すにやるのであらう。従つては社會性の自然的發達から云へば女の兒には家庭的云ふ事が大切であり、男の兒には社會的の云ふ事が大切である云ふことになる。家庭に幼稚園に於て、先生又は一般に人に馴れ易いものは其數に於て殆んど同數である。

「お話を聞く時落付いて聞いてゐるもの」は家庭でも幼稚園でも全く同數で、これは幼兒が如何に話好きであるか云ふ證據を見る事が出来るかも知れない。幼兒は好きな話を聞く時には家庭であらうが幼稚園であらうが場所の如何も、話す人の如何も問はないで聞き込むのである。これは全體の八十一・六三%である。

人間の生活はリズムカルなものである。それ故、外部から刺戟して來るリズムに正しく乗るか否かは幼兒の身心の發達に尠からざる影響を與へる。故に種目の一つにこれを加へたのであるが、「リズムに合つた活動の出來ないもの」は極めて僅少で、大部分はそれが出来る。即ち幼稚園では八九・二%、家庭では九二・五%である。家庭での觀察も幼稚園での觀察も殆んど差がない。

所が「何かよく質問をするもの」は幼稚園に家庭とは大變な相異を示してゐる。幼稚園では僅かに二十二人であるが家庭では百〇七人になつてゐる。これはさもあるべきで、其の一つの理由は幼稚園では人數が多いので個人的に幼兒が先生にゆつくり物を質してゐる機會が少くない云ふこと、二には私の幼稚園では自由主義の保育をしてゐるため保母は始めから終りまで全體の爲めに大變忙がしくしてゐる云ふこと、第三の理由は幼稚園は幼兒に取つて刺戟の頻繁な所であるから幼兒の頭に質問を構成する餘裕が乏しい云ふこと、此の意味に於て幼稚園は家庭よりも落付きのない所である。今一つの理由としては質問を構成する資料は幼稚園よりも家庭の方に豊かにあるかとも思はれる。幼稚園は型の如く毎日繰り返

されて行く。そして幼稚園に来るなら全く幼稚園云ふ小さな範圍に閉ぢ込められてしまふのである。で幼稚園には變化が少ない。所が家庭はその所が大變異つて單純のやうではあるが一面から見るに變化性に富んでゐる。こんな理由で親には多く質問するが先生には餘り質問をしない事になる。この點に就いては幼稚園として大に考究しなければならぬのではあるまいかと思ふ。

次に物真似であるが、「物真似が普通に出来ない者」は低能か低能に近い所謂劣等な智能者である。此の種のもは家庭でも幼稚園でも極く僅か女の兒にあるのみで男の兒には一人もない。觀察は家庭に幼稚園に殆んど同じである。

「言葉の發音が普通の者」は幼稚園で八五・七一、家庭で八七・七六になつてゐて、家庭の方が少し多いのみである。幼稚園の保育課目に言葉の發音が置かれてあるだけに發音の未だ普通に至らないものが幾分か有るわけである。そしてこの發音が不充分である者は家庭幼稚園共に男の兒に多くある事を示してゐる。

以上で調査種目の第一部を終つた。續いて第二部に移つて見やう。第一に「意地つ張りな者」であるが、これは最初の素直な者と同様さう云ふものが意地つ張りであるかについては判斷に困難なものがある。併し前にも述べたやうに、此所で寧ろ判斷に俟たないで日頃の心持からの返事を尊重するのであるから、其積りで調査したのであるが數に於て幼稚園よりも家庭に於て遙に多くなつてゐる。即ち幼稚園では三三・三三%であるに對し家庭では七五・五一%になつてゐる。これは性質の素直なものが幼稚園に多く家庭に少ないと同じ理由による事は明かである。男女を比較するに家庭でも幼稚園でも男より女の方が多くなつてゐる。

「お友達をいぢめる者」は幼稚園に於て四二人あるに對し家庭では僅かに十九人である、親は我兒が他の者にいぢめられるを考へて他をいぢめるものは考へないのが多い。幼稚園で他の者をいぢめるのは多くは家庭に於て或は近所の友達仲間に

於ていぢめられてゐるものが多い、然う云ふ所から親は我兒はいぢめられるものさばかり思つてゐるのかも知れない。我兒を憐れむ親心はたさへいぢめてゐても寧ろいぢめられてゐるものにしたいたのが普通である。それ故に他をいぢめることは考へないでいぢめられてゐる云ふのであらう。併し幼稚園としては今少し親の方で事實を知つて欲しいと思ふ事ならばである。男女を比較して見るに幼稚園家庭何れに於ても女より男の方が多い。

次に「氣の弱いもの」を見るものは幼稚園より家庭の方が倍も多くなつてゐる。我兒が他のものをいぢめてゐてもいぢめられてゐるを考へる。親の方で我兒の性情を弱いものを見た所で少しも不思議にするに足らない。寧ろ然うあるべき云はねばならぬ。「よく泣く」云ふのは氣の弱い云ふのは幾分異つて性的云ふよりか習慣的云ふ方がよいかも知れない。だからよく泣くものが氣の弱いものだとも云へないし、氣が弱いから必ずよく泣くものともきまつてない。併しこれも幼稚園よりか家庭の方に多い。それは家庭では甘やかされてゐる爲に見てよからう。今此の二種目を男女別にして見るに、氣の弱い者もよく泣く者も女より男の方に多く、家庭では氣の弱いものは男の方が多くなつてゐるが、よく泣くものは女の方が遙かに多くなつてゐる。

次に「遠慮屋さんで人前に出るのをはつかしがるもの」は幼稚園よりも家庭の方が多い。幼兒の中には親や兄弟のゐる所では遠慮屋さんも幼稚園へ來ては全く變つて遠慮さんの臭ひもしないものがある。男女を比較して見るに殆んど同じである。

次に「そはくして落付かぬもの」であるがこれは幼稚園より家庭の方に遙かに多くなつてゐる。こゝに「そはく」云ふのは落付かない事を強く示したものであるから、其強い意味に於いて落付かないのは幼稚園よりも家庭に多い云ふ事になる。或る意味に於て家庭は幼稚園よりも落付くによい場所である。併しそれだけに又強度の落付きのないものが

家庭の方に多くあるもの云へるであらう。これを男女別にすれば幼稚園では女より男の方に多く、家庭では殆ど同じである。

「人目を盗むやうな様子のあるもの」は極めて僅かであつて家庭の方で四・七六%、幼稚園の方で六・一二%である。家庭よりも幼稚園の方が少し多くなつてゐる。男女別にして見るに家庭でも幼稚園でも女より男の方が遙かに多い。

次に「年よりもませ、てゐる者」であるが、これは幼稚園よりも家庭の方に多くなつてゐる。家庭では多く兄弟間で比較されるが幼稚園では其幼稚園の全部の幼児の中で比較するから親の方でませた、子供と思つてゐる者も幼稚園では案外並者なまとせられることがあるであらう。男女を比較して見るに家庭でも幼稚園でも男より女の方が遙かに多くなつてゐる。幼少な頃は男よりも女の方が智慧の進みが早いからであらう。年よりもませてるか云ふ質問に反対に年よりも遅れてゐるか云ふ質問も並んでゐるが、此れは最初のカードにはなく、中途から補充したので數が半端であるから表には表はさないことにした。

其次ぎに「向ふ見ずの亂暴をする者」であるが、これは又家庭の方が多くなつてゐる。外ではおさなくても兄弟間では随分亂暴をするものがある。故に當然幼稚園よりも家庭の方に亂暴なものが多いわけである。亂暴をするものは家庭でも幼稚園でも男の方に多い。

病氣でもないのに退氣がつて幼稚園を缺席するものは幼稚園の方に多くなつてゐる。此れは幼稚園の方では幼児が病氣でもないのに休んだミすれば、幼児自身が来るのを退氣がつて休んだものミ單純に判斷しがちであるからである。實際は幼児自身は來たくて泣いたのを親の方で無理に休ませたミ云ふ場合もある。

最後に「物事に飽きつばいもの」は家庭の方に多い。そして家庭でも幼稚園でも女よりも男の方に飽きつばいものが多く

なつてゐる。

以上で大體先きに掲げた表についての觀察を終つたのであるが、今こゝにそれを纏めて見るこ

1、幼稚園より家庭の方に多きもの

- 一、何か手先きのことをしたがるもの
- 二、遊ぶ時に快活に遊ぶもの
- 三、何かよく質問をするもの
- 四、意地つ張り
- 五、氣の弱いもの、よく泣くもの
- 六、遠慮屋さんで人前に出るのをはづかしがるもの

2、家庭より幼稚園の方に多いもの

- 一、性質の素直なもの
- 二、自分で出来る事は大抵自分でするもの
- 三、お友達をいぢめるもの
- 3、両方にながら同程度にあるもの
- 一、先生になつき易く、人に慣れ易いもの
- 二、お話を聞く時落付いて聞いてゐるもの
- 三、リズムに合つた活動の出来るもの
- 4、幼稚園で女より男に多きもの

七、そはくして落付きの無いもの

八、年よりもませてゐるもの

九、向ふ見ずに亂暴をするもの

十、物事に飽きつばいもの

(望ましきもの三、望ましくないもの七)

四、人目を盗む様子のあるもの

五、幼稚園を缺席しがちなもの

(望ましきもの二、望ましくないもの三)

四、物真似が普通に出来るもの

五、言葉の發音が普通なもの

(望ましきもの五、望ましくないもの〇)

- 一、性質の素直なもの
 - 二、遊ぶ時快活に遊ぶもの
 - 三、先生になつき易きもの
 - 四、お話を聞く時落付いて聞いてゐるもの
 - 五、何かよく質問をするもの
 - 六、物真似が普通に出来るもの
 - 七、言葉の発音が普通なもの
 - 八、お友達をいぢめるもの
- 5、幼稚園で男より女に多きもの
- 一、手先のことをなしたがるもの
 - 二、自分のことを自分でするもの
 - 三、リズムに合つた活動の出来るもの
- 6、家庭で女より男に多きもの
- 一、自分のことを自分でするもの
 - 二、遊ぶ時快活に遊ぶもの
 - 三、リズムに合つた活動の出来るもの
 - 四、物真似が普通に出来るもの
 - 五、言葉の発音の普通なもの
 - 六、氣の弱いもの

- 九、氣の弱いもの、よく泣くもの
 - 十、遠慮屋さん
 - 十一、そはくして落付きのないもの
 - 十二、人目を盗む様子のあるもの
 - 十三、向ふ見ずに亂暴するもの
 - 十四、幼稚園を缺席しがちなもの
 - 十五、物事にあきつばいもの
- (望ましきもの七、望ましくないもの五)
- 四、意地つ張り
 - 五、年よりもませてゐるもの
- (望ましきもの三、望ましくないもの二)
- 七、人目を盗む様子のあるもの
 - 八、亂暴をするもの
 - 九、幼稚園を缺席しがちなもの
 - 十、物事に飽つばいもの
- (望ましきもの五、望ましくないもの五)

7、家庭で男より女に多きもの

一、手先きのことをしたがるもの

二、人に慣れ易いもの

三、何かとよく質問をするもの

四、意地つばり

五、よく泣くもの

六、遠慮屋さん

七、年よりもませてゐるもの

(望まじきもの三、望ましくないもの四)

性質の素直なもの、お話を落付いて聞いてゐるもの、そはくして落付きのないもの等は家庭に於ては殆んど同程度になつてゐる。

それで更に此れを一つの表に纏めて見るに次ぎの如くなる。

望まじきもの (第一部)		家庭	男	女	幼稚園	男	女	雙方に 同程度	男女
望ましくないもの (第二部)	7	5	4	3	3	5	2	0	1

によつて左の如く云ふ事が出来る。即ち、

家庭に於ても幼稚園に於ても望まじきものよりも望ましくないものゝ方が多く現はれてゐるが、割合からすれば家庭よりも幼稚園の方に望ましくないものが餘程少くなつてゐる。家庭で望ましくないものは $\frac{7}{8}$ であるが、幼稚園では $\frac{3}{2}$ である。若し兩方同程度の5を雙方に加へるに、家庭は $\frac{7}{8}$ となり、幼稚園は $\frac{3}{7}$ 、望ましくないものは雙方共に一層少くなつて望まじきものゝ方が多くなる。併し幼稚園の方が家庭よりも遙かに多くなつて来る。それ故、幼児に現はれる望まじき傾向から見て右の表が示してゐる數字が家庭より幼稚園の方が教育的によい云ふことを示してゐる云ふことにな

勿論一概に云ふ事は出来ないが、若し私の調査した所が幾分研究的價値をもたらす方法であつたならば上の表

る。男女の比較に於て見ても此れも同様に於て、家庭では望ましきものと望ましくもないものと殆んど同様に現はれて、唯僅かに男の方に望ましきものが多いのみである。

所が幼稚園の方では男女何れにも望ましきものゝ方が遙かに多く、そして男女殆んど同程度である。故に此の方から見ても幼稚園は男女何れに取つても家庭より教育的によい環境であること云へることになるであらう。

此の調査は色々の意味に於て甚だ有益なものがあり且つ其利用範圍も相當にあることを経験したのである。それで其の有益な點及び利用の方法について一、二述べて此の稿を終ることにする。

一、先づ第一此の調査によつて家庭の幼児と幼稚園の幼児とは同じ幼児でも異つてゐること云ふ事を明かに教へられたのである。異つてゐる程度は様々であるが、兎に角異つてゐる。稀れには家庭でも幼稚園でも餘り異はないものもないではないが、そう云ふのは殆んどないこと云ふてもよい。そして家庭で良いもの、必ずしも幼稚園で良いものでもない。其反對に家庭で悪いもの必ずしも幼稚園で悪いものでない。ではさう云ふものがさう云ふやうに變るかこと云ふ事であるが、此れは尙研究しないこと直ちに解答する事はむづかしい。併し家庭で餘り嚴格に扱はれてゐるもの、盲目的な愛に溺れてゐるもの、獨り兒、母親育ち等は家庭で良く幼稚園では悪いやうである。

内でのよい者が外で悪く、外で良い者が内が悪い、然う云ふ傾向は大人にも認められることで、此れは一つの性格上の事柄こと云へるかも知れない。人間は内で満されなければ外で満さうとし、外で満されなければ内で満たさうとする。それが積り積つて一つの性格を築き上げる事になるのであるが、内と外との距離を減ずることによつて圓滿な人格が出来上る事に

なる。路傍の人と家庭の人とは違ふ。併しその違ふ所にも尙統制が取れて行く、そこに人格の働きがあるわけである。

兎に角大人に現はれる性格上の傾向は既に幼児に於て認められるのである。こゝには家庭と幼稚園の協力を要する點が多分にあると思ふ。父母は多く家庭に於ける我が兒を知つて幼稚園に於ける我が兒を知つてゐない。それでは幼稚園教育の効果が多く期待出来ないことになる。家庭教育と云ふ點だけから考へても父母がもし外に於ける我が兒の實際の生活状況を知らないと家庭教育そのものも不充分を免かれない。だから父母は外に於ける我が兒の生活状況を知らねばならぬ。幼稚園としても幼稚園に於ける幼児の生活の實際を父母に知らせて家庭の協力を求めなければならぬ。

二、所で幼稚園に於ける幼児の實際を其父母に知らせる事は仲々容易な事ではない。良い事は幾らでも云へるが悪い事であるが然う容易く口にする事は出来ない。例へば他のものをいぢめて困るに云ふやうなものがあつて、それをそのまま其親に知らせたとしても親としてはそれをさうしても信じないかも知れぬ。そして反つて保姆の方を恨んだり、幼稚園に信頼を置かなくなるかも知れぬ。そんなわけであるから仲々幼児の悪い事は父母には云へない。併し父母としては我が兒が幼稚園で果してさうしてゐるだらうか、良い兒か、悪い兒かを始終心に懸けてゐる。そして時には我が兒の動靜を窺ふべく幼稚園に顔を出すのである。それでゐて眞實のこゝが父母には話せないで、「お子様は元氣で何かさよくやつていらつしやいます」なごお座なりの挨拶を保姆は父母に對してしてゐるのが多い。これでは肝腎の所で家庭との協力は出来ない事になつてしまふ。

こゝに此の調査カードの大きな働きがある。此の調査カードには幼稚園と家庭との雙方から調査するやうになつてゐる。何づれから先きに調査してもよいのであるが雙方の調査が終了した後、家庭に「幼稚園では御宅のお子様をさう見てゐるかをお知らせします」に云ふて、カードのまゝを知らせてやるのである。その時はたゞひ「お宅の御子様はお友達を

いぢめます」こか「人目を盗む様子がありません」こか云ふたにしても父母の感情を害する事はない。

つまりカードに物を言はせるのであつて、その時は極めて圓滑に幼稚園の云はんこする所が父母に通ずることになるのである。そして若し我が兒に望ましくない、特にお友達をいぢめるこか、人目をぬすむ様子があるこか云はれるなら、父母は一層幼稚園と協力して我が兒の缺點を矯正しなければ云ふ心持になるのである。幼稚園から遠ざかるのではなく、幼稚園に近づいて頼つて來るのである。それ故に私はかつて幼稚園と家庭との協力と云ふ事が問題になつた會合に於て此の種のカード——此の種と云ふのは調査種目はさう云ふやうに変更してもよいし、又其數も幾つか多くしてもよいからである——を使用する事をすゝめた事がある。

確かに以上述べたやうな意味に於て此の調査カードは大に役立つものがあると思ふ。

三、私の試みた此の調査に於て、調査種目の選び方についてはまだ研究の餘地があると思ふ。若し調査種目の選び方が宜敷きを得て、もつと科學的であり研究的であつたなら、其結果はもつと效果的であると思ふのであるが、併し右に擧げた二つの點は既に此の調査に於て明かに認め得る收穫である。此の上に若し此の調査票を一枚々々手にして個々の幼兒を環境と合せて研究するなら、そこには又保育上適切なる知識を看出すこゝが出来らうであらう。我々は多くの場合一般的知識をもつて全體に適用してゐる。併しそれだけでは無論完全な保育は出來ない。さうしても個々別々に幼兒を理解しなければならぬ。それには斯る調査も勢ひ必要になつて來るのである。

自分で出来るこゝを自分でせず、兎角他に頼りがちなものがあれば其原因となつてゐるものを更らに進んで調べ、其原因となるべきものを除去しなければ知能の發達に影響するばかりでなく心理的な全般に亘つて悪影響を及ぼすこゝなる。遊ぶ時に不活潑なものがあるなら、何故不活潑なのか、社會心の發達が遅れてゐる爲めか、又は身體の健康がよくな

い爲めか、何かそこに原因がある筈である。落付きのないものにはどうしたら落付かすこゝが出来るかを考へ、リズムに合つた活動が出来ないものには適當な練習を特に與へなければならぬ。言葉の發音の不充分なものには特に發音の稽古をさせ、小學校に入學する迄に普通に發音が出来るやうにしてやるこゝも大切なこゝである。お友達をいぢめるものがあるれば、いぢめるのは何によるか、をよく調べて見る必要がある。何故ならば其原因は甚だ複雑してゐるからである。いぢめ方なご精密に觀察し、遊び友達、兄弟間の事情、父母の取扱ひ方なご調査して適當なる處置を講じなければならぬ。いぢめるものゝ中には單に友達が欲しくて、友達を求める方法を誤つていぢめてゐるものもある。又友達がいぢめてゐるのを見て單に模倣してゐるものもある。勢力表示のために弱いものいぢめをするものもある。からかひのためにいぢめてゐるものもある。復讐心からいぢめるものもある。其他もつゝ惡性のもも種々ある。云ふやうなわけでこれには種々なる原因があるのであつて、決して一樣に見るべきものではない。此の外意地つ張りなもの、氣が弱いもの、よく泣くもの、人目を盗む様子のあるもの、物事に飽き易いもの等何れも其原因なるべきものがある筈であるから、其原因を早く看出して其れを除去するこゝは保育上大きな任務であると思ふ。

調査は往々單に調査で終つてしまふ事がある。それでは折角の調査も全く無意味なものとなるのであるが、斯うして個個の幼兒についての理解を深めるこゝが出来、望ましくない傾向の原因を取り除き、望ましき方面を益々助長せしめるやうにするなら、斯る調査の意義は甚だ大なるものがあると思ふ。

イギリス保育發達史(二)

白根 孝之

二 一八七〇年より一九〇五年迄の發達

一八七〇年はイギリスで始めて幼児保育に關する事柄が法律的に問題となつた年であり、一九〇五年は更に之に關し教師に對して全國的な條例の發せられた年である。こゝにこの間を一時期として取扱ふ所以である。

(一) 一八七〇年の小學校令とその影響

第一章に見來つた如く、イギリスでは一八七〇年頃までは保育は小學校教育の一部門として行はれて來たといふのが一般の狀勢であつた。たゞモニトリアル・スクールだけは六歳に達した子供のみを收容したのでその豫備的部門としての幼児級は此にはなかつた。更に明確に言へば、十八世紀の後期にイギリスの各地には民間有志の努力によつて各種の小學校が建てられたが、十八世紀に於いては幼児の保育は之は別な學校で行はれてゐた。それが一八三九年の法律で政府が小學校の認可を始めた以後、幼児級は小學校に附屬してその一部分をなすものとして次第に發達して來たのであつた。併し一八七〇年にいたるまでは一般初等教育の發達は極めて不規則で順調とは言へなかつた。然るに一八七〇年に「初等教育令」(Elementary Education Act of 1870) が通過して之によつて教育の問題が始めて眞剣に正式に考へられ出したと言ふことが出来る。そして各地の學校局に教育に關する法令を發する權利が與へられ、五歳から十三歳までを義務制とする

こゝが許された。併し是等の法律は尙ほ多くの例外を許し、絶對的な強制力をもつものではなかつた。

そこで一八七一年にロンドン文部當局によつて一般教育制度を新しい時代の要求と事情とに適應させる目的の下に、ハックスリー(Prof. F. H. Huxley)を委員長とする「教育調査委員會」が組織任命された。この委員會は公共小學校教育を便宜上七歳以下の幼兒級(infant class)七乃至十歳までの下級(junior class)十一歳以上の上級(senior class)の三階級に分つこゝを勧めてゐる。そしてこの委員會は幼兒級の必要を大いに強調し、その理由として「適當に指導された幼兒學校は幼兒を種々の悪影響から護り、正しい習慣の養成に力があるばかりでなく、進んでは知育の上でも將來の進歩を大いに促進する」をされてゐる。そして幼兒級は原則として男女幼兒級とし、保育には婦人を適當とした。この委員會の案はロンドン學校當局によつて大いに活用され、その後の學校管理の上にかんがりの程度に實現された。

これと少し後れて一八七三年にウェストミンスター高等師範科長のリッグ Rigg は「國民教育」(National Education)なる一書を公にし、別の見地より當時イギリスに於ける教育改革の意見——特に大都市地方に於ける公學校に關する改革意見を世に問ふた。それによれば初等教育機關の組織は少くも幼兒級・男兒小學校・女兒小學校に區分さるべく、若し要すれば小學校を上下の二級にして上級のみを男女に分つ四區分、更に上下級をも男女に分つ五區分すべきであるとして、幼兒級の必要を明らかにしてゐる。

これ等はいづれも一八七〇年の初等教育令の直接の影響であり、且つ幼兒の保育が初等教育の最初の部門として必要なこゝが漸次明らかになされた證據を見るこゝが出来る。事實上この法令は各地の學校當局による特殊法令を加へて修正補削されて、特に大都市地方の學校では幼兒級の獨立は事實上確立されるやうになつた。その結果、當時まで未だかなりに残存してゐた刀自學校はこの法令の出現と共に急激に減少の傾向をみるやうになつた。

(2) 義務教育年齢の問題

一八七〇年の初等教育令の第七十四條には、イングランド並にウェールズに於ける初等教育は五歳を以つて初まり、之を義務制とするこゝを得る規定されてゐる。一八七〇年に互る迄のイギリスの義務教育制はさうなつてゐたかといふに、一八三三年から六七七年に至るまでに次々に「工場法」なるものが發せられ、又一八六〇年には「鑛山法」が制定されて、勞働に従事する子供の両親及び工場主に對して人道少年保護の立場から義務制を定めてゐたが、その他の一般の両親に對してはその子供に關して何等の義務教育規定がなかつたのである。ところが一八七〇年のこの條令によつて各學校當局は「五乃至十歳までの義務制を敷くべき附加令を發するを得」こされ、更に地方によつては之を十歳以上十三歳まで引上げるを得るこゝにされたが、更に一八八〇年になつてこの「權利」は「義務」に改められ、こゝにイギリス教育史上に義務制が確立したのであつた。一八七〇年に於けるこの法律案に關する議會の議事録を見るに、フォルスター、デイスレリー等の有名な政治家が枝葉にわたつた異論はあつても全てこの案に贊成してゐる。

一八七二年になつて文部省は五歳を更に引き下げて三歳をもつて就學の最低年限とし、更に三歳以下の幼児をも收容するこゝを地方によつては敢えて妨げないこゝになつた。ハックスリーやリッグ博士によつてなされた主張の代表する當時の一般輿論の反響も見るこゝが出来る。

イングランド及びウェールズ、更にスコットランドの一部も之に含まれていゝが、イギリスに於ける幼兒學校は獨特の發達をして來たもので、世界の何處にもこれと類似のものはない。上に述べたやうに一八七〇年代の初からイングランド及びウェールズでは三歳を以つて既に學校に入るこゝを許されるこゝになつた。勿論之は主として都會地に限られて、その爲めの充分の設備の存するこゝが條件とされたが、その他の邊僻の地では五歳をもつて義務教育を強制される傾向が確

立したのである。ヨーロッパのその他の國、イギリス自治領及び北アメリカ合衆國の何れの土地に於いても、三歳から通學させる國はなく、六歳——さらに七歳が限度である。かくして一八七〇年の初等教育條令の通過後は、幼児學校はイギリスの初等教育組織の有機的な一部分となり、比較的獨立した部として特別の教育を受けた教師によつて、七歳以下の幼児に對する特別の保育が考へられるやうになつた。リッグ博士は上掲の「國民教育」の中で次のやうに言つてゐる。

「ドイツにあつては幼児學校はイギリスの如く初等教育組織の一部ではない。そして通學年齢もイギリスよりも少しおそい。アメリカに於いては幼児學校といふのはまだあまり知られてゐない。イギリスの幼児學校制は、たしかにその教育の一大特異點であり、大きな進歩である。」

又ロンドン學校當局の建築課技師たるロップソン E. R. Robson はその「學校建築」の中で次の様に云つてゐる。

「イギリスの公立小學校の或るものに附屬してゐる幼兒學級はその他の國に於ては存しないものである。この初期の幼兒訓育の機關に對しては他の國は殆んど公の認可を與へてゐないのに反してイギリスに於ては公立小學校の必要なる一部分として行はれ、國民教育組織の一部分、しかもその重要な一部分として行はれてゐるのである。」

(3) 一八七〇年に於ける幼兒學校の設備に關する法令

一八七〇年以後に於てイギリスの文部當局は數度にわたつて學校の設備に關する法令を發布したが、これは十九世紀の後半に於ける幼兒教育の組織及びその機關の充實の上に大いなる光を投げるものであつた。これ等の法律によつて幼兒學校或は幼兒級は小學校を根本的に異なる機關であるを云ふ事が原理的に明かにされたのであつた。一八七一年に發せられた「學校の設備に關する規則」の如きは特に幼兒學校の設備について具體的な細かい規定を與へてゐる。即ちこの法律によれば幼兒學校は校舎の一階をもつてこれに當つべく、幼兒の數は一學級八十人を越ゆべからず、若し八十人を越ゆる時は其

學級を二つ以上に區分すべきであるを規定してゐる。

かくの如くにしてこれ等の法律によつてイギリスに於ける幼児の保育はその本質に於て小學校の教育を獨立すべきものである事が次第に明かにされて來たのである。例へば、前記の小學校の設備に關する法律は、實際の設備に關する上の如き規定の他に、かくの如き規定の基礎として、幼児學校は小學校の訓育を教授することを妨害せざるやう、これは別の建物に於て行はねばならないを規定して、両者が教育組織の上で異つた部分を形成するものも考へてゐる。一九〇四年の「公立小學校の設備に關する規程」にいたればこの立場は更に明瞭に現はれて來る。「極めて小さい學校は別にするも、一般に幼児は他の年上の子供と一緒に教室で教へられてはならない。幼児に適用される教授なり訓育の方法は、年上の子供の教授や訓育を擾亂するからである。又幼児級への出入は他の學級を通過しないやうにせねばならない。」

同様の必要は單に當局の法令ばかりでなく二三の學者によつても強調されて來た。例へば前記ロブソンは幼児學校に運動場を進行遊戯場が必ず設へられねばならないとし、更に後者には雨蓋が必要であるとして、この種の設備の創唱者となつた。彼は猶ほ進んで「嬰兒室」^{ベビー・ルーム}の附設を説き、遊戯場の外壁にはガラスの覗き窓を附けて監視監督にあつべし等々言つてゐる。

之を要するに一八七〇年代になるに幼児學校はかなりに普及し、小學校は獨立の、然もその組織の一部分を形成すべきことが略々確立し、従つてその設備の點についてまで論議研究されるやうになつた。

(4) フレーベルの幼稚園とそのイギリスへの影響

イギリスに言はず世界各國に於ける幼児保育の歴史はフレーベル Friedrich Froebel (1782—1852) 彼の幼稚園 Kindergarten、カイルハウ近郊ブランケンブルクに一八三七年に建設された學校の影響をはなれて論ずることが出来ない。

嘗つてコメニユースは六歳以下の幼児の特別の教育の必要なことを指摘し、それは遊戯と銷暇の過程の連続であるから、読み・書きの煩はしい教授を課すべきではない」といふ注目すべき思想を發表した (Informatorium der Mutterschule 1633)。フレーベルはコメニユース、ペスタロッチ、ルソーの思想に影響された點が少くないが、かくの如き思想を始めて實現した人である。彼は幼児の自然的特質に基礎を置いて、家庭に於いて母と乳母から與へられる愛育を補ふことをもつて、幼児保育の目的とした。これは幼児を植物に譬へ、教師を園丁になぞらへた Kindergarten の名に既に明かである。フレーベルは六歳までの幼児に對して、組織的に考へられた遊戯を基礎とする保育機關の組立てをその目的とし、彼の「幼稚園」は家庭の教育的機能に代らんとするものではなく、むしろこれを補ふことを目的とするものであつた。

然しフレーベルのイギリス幼児保育に對する影響は、直接的には勿論間接的にも一八五〇年頃までは知られてゐない。一八五四年にロンドンの「皇室文藝院」Royal Society of Arts の主催の下に教育展覽會が開催されたが、その折ハムブルクのロンゲ夫人 Frau Ronge が來會してフレーベル式設備、器具を展覽に供し、且つフレーベル主義の講演を行つたのが、イギリス教育界にフレーベルに對する關心が起つた動機となつてゐる。同年視學ミッチェル Inspector H. Mitchell はこの展覽會に關する一般的報告に於いて、當時のイギリスに行はれてゐた幼児學校の實情を攻撃非難した後、フレーベル主義こそは、その實行に多大の努力を要するに共に、又最も幼児に適した保育法であることを大いに強調する所があつた。曰く「フレーベル」の方法は、子供を眞に子供として取扱ひ、自ら考へることを教へる。子供らしい玩具も最も自然な方法で、自らの思想を表現し、物語り、又他人の話聞くことを教へる。この原理の最も大きな特色は「作業」にある。殆んど教授は行はれない。子供達は單に自ら生み出すやうに導かれる (Minutes of Committee on Education, 1854)。これによつて幼児教育の正統的理論が始めてイギリスに移入されたのである。而してこれが上下の賛同共鳴を得て、迅速

に各地に擴まつて行つたことは、翌一八五五年の「委員會報告」に於いてミッチェル氏は「レーケンハム州のセント・マークスに於いて優れた婦人の下にフレールベル主義の行はれてゐる幼児學校」のことに觸れてゐるのもわかる。

一八八五年には彼の有名なチャールズ・ディッケンズ Charles Dickens が「家庭雜誌」の中でフレールベル主義を大いに發展させ、これが大きな宣傳となつたことは疑ない。一八六〇年にはロンドンのグレース・ロードに於ける「幼児學校組合」が經營する「模範學校」にフレールベル法が取り入れられた。一八七〇年にもなれば「幼稚園運動」はかなりに廣くイギリスの各地に普及し、ベッドフォード、バーミンガム、マンチェスター等にフレールベル主義による私立保姆養成所が建てられるにいたつた。イギリスに於ける「フレールベル協會」は一八七四年に創立され、七六年から試験を開始した。公立の保姆養成所は一八七四年に「イギリス内外學校協會」 British and Foreign School Society がストックウエルの師範大學と協提して建設された。一八八四年にはこの協會の手でサフロン・ウォルデンに「幼稚園保姆養成所」が建てられた。

一八七一年以後になるミイギリスの各地方の學校當局がいつれも争つて「幼稚園」の組織と方法を取入れた。この年ロンドンの學校當局はその「幼稚園令」の中に「例へばドイツ、スエーデンの幼稚園に行はれてゐる如き手と眼による簡單な教育方法を採用すべし」といふ一句が挿入されるやうになつた。

一八七三年にロンドン學校當局は幼稚園運動の指導者を任命し、翌年その手で保姆養成の講習會を組織せしめ、更に翌年にはこれに保姆免狀の下附權を與へた。

併し全ての新しい主義や運動の場合と同じく、フレールベルの幼稚園運動も當初はその外的機械的な方面のみが盛に移入されて、眞の内面的本質は容易に理解されなかつた。前記のロンドン學校當局に任命された運動指導者も當局への報告に於いてこの點に觸れて、まだ幼稚園運動の眞精神はイギリス幼児學校の中に完全に取入れられたと言ふことはできない。

教師自身それは幼児保育に於ける原理であることを見逃して、フレーベルの方法を一つの科目として考へてゐる傾向がある、と言つてゐる。フレーベル式設備、器具は他の地方學校當局や私立學校によつて、一八七〇—一八〇年代にわたつて次第に多く取入れられたが、いづれも眞のフレーベル方法よりはその精神に於いてかなりに距つた單なる機械的形式的模倣に陥る傾向があつた。一八八二年文部省から各督學官に發せられた廻狀にも次のやうに言つてゐる。「幼稚園の方法の單なる恩物や機械的方法を取入れたゞけで、手・眼・知性・徳性に於ける眞の陶冶を忘れるなら、何らの益もないであらう。」この事情は當時政府より補助金交附を求めするために幼児學校の設備と體裁を整へるに必要から起つた點も多々あり、一八三三年に於ける廻狀は特にこの點に就いて注意を喚起してゐる。その一面に於いてはフレーベルの眞精神と眞意義の價値は充分に認められ、各種の文獻にその眞の運用をいかに重視したかといふことが残されてゐる。例へば一八八五年に發せられた教育條令には「幼児はその年齢に適應した訓育を施さるべきである」と規定され(第一〇八條)、更に一八八九年の條令に於いては「年齢と能力とに應じた」と補正されてゐる。

(5) 一八九一年以後に於ける保育思想の發達

フレーベルの流れを汲む幼稚園運動は、幼児の精神的發達・趣味性・興味・欲望等の特質に關する正確なる智識の必要なることを次第に意識して來たことは、前章に述べた通りであるが、幼児教育に對する正しい方法の確立といふことは更にますますその必要が痛感され、一般の注意を引く問題となつて來た。幼児保育に關するこの新思想の影響は、十九世紀の末葉から十九世紀の始にかけて文部省から發せられた法令その他の文書の上に明らかに反映してゐる。例へば一八九一年二月六日づけの「督學官指示書」(Instruction to Inspectors)の第五條、第六條はこの點に於いて著しい進歩を示すものを見ること出来る。即ちその第五條に於いては幼児學校の學科の時間配當、その種類及び特質が考察され、更に

幼児保育の對象は特別に細かい注意を必要とするこゝが述べられてゐる。曰く

「それ故に、如何なる場合にも一つの科目に充當される時間は三十分を越ゆべからざるこゝを必要とする。普通二十分をもつて原則をすべきであらう。そしてこの時間は各級に應じて異なるべきもので、^{ベビーグラ}嬰兒級にあつては實際の課業は十五分間を適度とする。各科目の間には休憩の時間、唱歌の時間をおく。最下級では課業は子供に親近な動物や事物から始め、各年齢に應じていろ／＼を趣を變へ、且つその課業に相應しい唱歌や物語を點綴すべきである。子供達の自發的活動、共同的作業は保育の中心であつて、これによつて課業を生彩あるものとするべきである。」

この規程は現行のものよりも短時間の課業を勧めてゐるが、その保育思想に於いては數年以前のものと比してはるかなる進歩が見られる。たゞイギリスの保育に現在も色濃い教育的要素が既にこの時代にも存するこゝが知られる。

一八九三年に「幼兒學校に於ける訓育と教育に關する廻章」が文部省から各視學官に向けて發せられたが、これによれば更に著しい進歩の跡が見られる。この廻章はその後一九〇五年に文部省から出された「教師指針 (Suggestions for the consideration of Teachers)の第二冊中に殆んど文字通りそのまゝに活かされてゐるが、そこにはイギリスの幼兒保育史上當局の保育思想に印せられた一大進歩の跡を示すものである。

この廻章は先づ、文部當局は將來幼兒保育事業に於けるフレール的方法の充實の上に更に多くの支助を獎勵を與へる方針であるこゝを聲明し、こゝ數年間に於いて保育活動はかなりに著しい改變を受けたと言つてゐる。そして最下級への入學者數も全國的に著しく増加して來てゐるので、四年間の課程は將來原則的なものとして確立されるべきであるとしてゐる。

「初期幼兒の教育に於いては次の二つの根本原理を特にその基礎として遵守せねばならない。

(1) 幼児の自發的活動性をよく理解し、これを教師は正しい方向に差し向けてやらねばならない。

(2) 幼児の全能力の調和せる完全なる發展を主眼とすべきである。教師が特に注意を拂ふべきは次の諸點である。幼児の運動慾——即ち子供は常に活動を欲してやまないものである。而してこれが健全なる身體的發達の基礎をなすものである。第二は官覺特に視覺と觸覺との活用である。第三は子供の發する質問である。これは人間の知識の芽生えでありその將來の發展の母胎である。これ等の慾望は三者いづれも同時に發展せしむべきであり、又適當な制限内に置いて指導整理すべく、それぞれの段階に於いてそれ自身完全なる子供たらしめることを旨とせねばならない。」

この原文によつて知られる如く、子供の自發活動の尊重、視覺・觸覺に訴へる作業の重視、調和的發達の保育原理は既にこの頃になればイギリスの保育界の根本原理として公的に確立せしめられたと見ることが出来る。この廻章は更に進んで、從來是等の原理には充分の注意が拂はれてゐなかつたこと、從來の保育は幼稚園をもつて「玩具と暇潰し」の場所と考へてゐたこと、イギリスの保育學校はフレーベル的方法の知育的反面を見逃してはならないと言つてゐる。

次には各科目の統合といふ點を強調し、凡ての遊戲・作業は一つの理念によつて相互に統合されねばならないこと、この點に視學官は管轄下の教師の注意を喚起すべきであるとしてゐる。併し乍らこの點は、後に詳しく觸れる如く現代のイギリス保育ではかなり變つて、教科の統合といふことは現在ではさして重要視されてゐない。

更にこの廻章は作業なり科目なりの單なる繰り返しは無意義であるとして、之に警告を與へた後、從來繪や花が多く取入れられたのは學校に楽しさ喜ばしささを添へるものとして將來もこれを奨めてゐる。「美しい繪や花や植物は度々、多量に綴を飾つて、會話の題材にすべきである。」次は幼児の表現に就いてある。幼児は自ら知れること、知らんことを欲すること、自ら考へることを、自由に表現すること、を許されねばならない。次に知育に關しては次の如き規程がある。「幼児

學校に於いては初歩的の學科は正しい方法で教へるこゝによつていろいろの形をきり得るであらう。例へば讀方は繪や積木を使用して教へ得るし、書方は幼稚園に於いては圖畫の形で行はれ得る。又いろいろの作業、遊戯を關聯して數の基本的觀念を養ふこゝが出来らるであらう。」

尙ほ、一八九〇年頃までは小學校の成績の如何によつて政府の與へる補助金が決定されたし、又視學官は個々の學校の生徒に就いて試験を行つたものであつたが、此の頃からかうした事は次第に廢止されて行つた。これが又幼児學校の健全なる發達に資した點が少くない。本文の第一編に於いて述べたやうに、その當初以來イギリスの保育に著しい特色であつた知育的、教育的色彩——それは今日でも或程度まで認められるが——かゝる事情と共に次第に緩和されるやうになつた。即ち小學校上級が幼児級に對して一定の程度の三學の知識を要求する必要がなくなつたからである。

(6) 結語

上に見たやうに、一八七〇年の教育條令は五歳をもつて入學の年齢を定め、更に一八七二年の法律は三歳をもつて就學最低限度として認めるこゝになつたが、それ以來三歳、五歳といふ年齢は教育行政上重要な意義をもつやうになつて來た。それ以來幼児學校又は幼児級を三乃至五歳の「年少幼児」(Younger infants, or babies)の五歳乃至七歳の(年長幼児)(older infants)の二に區分するのが教育上の習慣となつて來た。一九〇五年文部省から發せられた前記「教師指針」にも、又一九二七年の最近の「教師指針綱要」 Handbook of Suggestions for Teachers にも名稱だけは少し異つてゐるが、この區分が踏襲されてゐる。現在では五歳までの段階は“preliminary or nursery stage”と呼ばれ、五歳以上は“infants stage”の言はれてゐる。

一八七〇年の條例の通過以來イギリスの學校に入學した五歳以下の幼児の數、同年齡の一般幼児全數、その百分比を示

年 度	就 學 者	全 數	百 分 比
一八七〇年	二七五、六〇八	一、一七九、二二八	二四・二
一八八〇年	三九三、〇五六	一、三三九、八二六	二九・三
一八九〇年	四五八、二六七	一、三七七、八一八	三三・二
一九〇〇年	六一五、六〇七	一、四二八、五九七	四三・一
一九一〇年	三五〇、五九一	一、五四〇、五四二	二二・七
一九二〇年	一七五、四六七	一、一四七、六八五	一五・三
一九三〇年	一五九、三三五	一、二一三、〇〇〇	一三・一

育委員會の報告書に於いても、視學官シャープは産業都市の貧困街の學校は、日中工場に働らく母親のために必らず「幼児級」を設くべきことを強調してゐる。その他一八九一年の「視學達示」、一八九三年の「廻章」にも同様の點に就いて特に指示する所があつた。これを要するに一九〇五年にいたる第二の時期に於いては、イギリスの保育はその思想に於いても、特にフレーベルの影響によつて大いに充實進歩し、法令上も制度を確立し、その實際に於いてもかなり多くの幼児を收容して實績を擧げた時期であつた。

せば次の如くである。

これによつて見ればかなりの消長は免れないが、概して多數の幼児が三歳にして幼児學校に入つてゐるこゝが知られるであらう。

一八七一年以來次々に發せられた法令の條文には三乃至五歳までの「年少幼児」に就いて特に注意を拂つてゐるものがある。その一例を擧げれば一八八八年の教

鶏さんと英夫さんのお話

武 田 雪 夫

さあ、これは、鶏さんにはじりと英夫さんのお話ですよ。

英夫さんのお家うちの鶏さんは、毎日卵たまごを生うむんですつて。

何羽もく、たくさんゐますから、ごの鶏か、それは解わかりませんが、一日いちにちに一つは、ぎんなこぎがあつても、きつこ生うむのです。

ですから、卵たまごの大だいきな英夫さんは、まい朝、ご飯なまに生の卵たまごをかけて食たべるお約束やくそくになつてゐました。

ええく、昨日きのうも食たべましたよ。それから、一昨日おとといも食たべましたよ。その前の日も食たべました。

ところが、今朝けさは、ぎうしたのでせうね？い、つも小ちひさなおぎんぶりの中にコロンミ入いつてゐる、あの卵たまごが出てゐないのです。

英夫さんは、大きな聲で、

「ぎうしたの、お母さん。今日は、卵たまごはないの？」と、お聞きしました。

するこ、お母さんがおつしやいました。

「あのね、英夫さん。卵は、昨日から、一つも生まないのですよ。今日も、まだ生まないのです。」

さあ、英夫さんは、不思議でなりません。

「さうして生まないのでせうね。お母さん。」

お母さんは、お首をおふりになりながら、

「さうね、さうしたのでせうね。——英夫さんが、鶏をおぎろかしたのではないこと？」お聞きになりました。

さう言はれるこ英夫さんは、少しの間かんがへてゐましたが、やつこ思ひ出しました。

英夫さんは、大きな聲で言ひました。

「あゝ、ある、ある、ありますよ。」

するこ、お母さんは、英夫さんの頭にお手々をおいて、

「さう。みんなこをしておぎろかしたのですか？みんな、お母さんにお話してごらんさい。」とおつしやいました。

「あのね、さうく、鶏のお家の前で、バンザイ、バンザイって、日の丸の旗をふりまはしたのです。」
するこ、お母さんは、びつくりして、

「まあ、そんなことをしては、だめですよ。鶏さんはね、おごろくも、卵を生むことを忘れてしまふのですもの。」とおつしやいました。

それでは、英夫さんが悪いのですね。

しかたがありませんから、英夫さんは、今日は卵なしで、ご飯をすませました。

それから英夫さんは、すぐに、お庭の方へ出て行きました。そして鶏さんのお家の前へ行く、小さなく
聲で言ひました。

「ごめんよ、鶏さん。もう、きつとおどろかささないから、また、毎日、卵を生んで下さいね。」

さう言ふさ英夫さんは、もう安心して、元氣よくむかうへかけ出して行つてしまひました。

さあ、それでは鶏さんたちは、また明日あしたから毎日、おいしい卵を生むでせう。

だつて鶏さんたちは、英夫さんの言つたことが解つたやうに、

「ココ、ココ、ココ……。」と、お返へんじをしてゐましたもの。

はい、それでは、これで、鶏さんさ英夫さんのお話はおしまひです。

フレールベル先生の遺跡を訪ひて(三)

フレールベル館副社長
法學士、文學士
高市慶雄

カイルハウ Keilhan

翌朝——十一月十一日——ニッカー・ボッカーに輕装してプランケンアルヒを立ち、朝霧を衝いて、單身山越三里の道を、徒歩でカイルハウへご向ひました。プランはすっかりブリュールファー博士が立て、下さつたのです。



(ウハルイカ)臺計時のルベールフ

角一つの教育所を建て、人の子の教育者としての事業を初められた地で、今日もなほ「フレールベル學園」に呼ぶ立派な學校が現存して居ります。「フレールベルの時計臺」も名付けらるゝ、時計塔のついた一棟の建物が先生の手によつて建てられたもので、其の他の堂々たる校舎は、何れも其後に増築せられたものであります。然し、私が三里の峻嶮を攀ぢて此の地を訪うたのは、決してこの建物を見る爲めではありません。此の學校に校長として、今なほ子弟の教育に献身せらるゝウエ

ヒター博士 Dr. Wächter の御警咳に接するのが目的であります。博士はフレール先生の血縁としての唯一の現存者で、フレールの姪の曾孫に當らるゝお方です。この學校に小學校及び中學校程度の教育を寺小屋式方法によつてやつて居る所で、長きは十年位も、同じ生徒を教育します。生徒は獨逸の各地方から、沿く博士の令名を慕うて集つて來ます。勿論全寄宿制度で全體主義的の全人格教育です。德育、體育の指導訓練に重點を置いてはりますが、さりて知育方面も決して看却されて居る譯ではなく、物理、化學、博物教室の施設の如きも堂々たるものです。寺小屋式は、教育の方法を指すので、その設備が寺小屋の如く貧弱なるの意味では決してありません。否、寧ろ、此の山奥にかゝる堂々たる建物があるかき、少なからず喫驚したのであります。目下生徒の數は一一〇人、先生十二人、この村落の全人口二〇〇、その中學校關係者一二〇人といふ有様で、このフレール學校の他には何にもないといふ様な寒村です。こんな所に學生を託すれば洵に安全で、カフェー等に行くには、少くとも一日がかりで山越で行かねば行けません(笑聲)。然し自然の環境は得も言はず美しい所で、さすがにフレール先生なる哉之感嘆これ久しく致しました。

こゝにフレール先生の肉筆の書翰約二百本程保存せられ、研究者の爲めには無比の貴い資料たるを想はしめます。また先生の主著「人の教育」の大部分は、こゝで脱稿したものだ相であります。こゝには亦、フレール先生の美事な彫刻のある記念碑、先生の最もよき共勞者ミッデンドルフ、ランゲタール及びバロップの墓があります。私は校長ウエヒター博士と共に裏庭の丘のその墓に詣で、記念撮影を致しました。私は古文書を獵つたり、無邪氣な子供達と木登り等をして遊んだりして、永からぬ秋の日を最も愉快に過す事が出來ました。別れに臨んで、博士は非常に名残を惜しまれ、記念にミテ、フレールの最も古い肖像版畫に、自ら一篇の詩を書き、署名して私に下さいました。

次いで翌朝、馬車を雇ひ、落葉散り敷く木曾路に似たシュワルツァタール溪谷を上つて、フリーベル先生の生誕の地オーベルワイスパッハを訪れました。海拔二千尺、山の上一小村、こゝに先生の生れた家は在りし日のそのまゝの姿で残つて居ります。先生は御存知の通り一牧師の子として生れたのですが、其の家は今も尙ほ牧師の家に使はれて居ります——血縁はもこよりありませんが。今の住み主はベラーマン Bellermann と申し、結婚した許りの若い牧師です。私を珍らしい遠來の客であるこいふので、下へも置かぬ歓待振りです。これが先生の呱呱の聲を揚げられた室である、これが先生の出生を誌した過去帳である、これが先生の肉筆の書翰である(二本あり)、等こ一々丁寧に案内して見せて呉れます。若い奥さんの御愛嬌も一入です。

古いお寺の過去帳の、一七八二年の條に、左の如く誌されてあるのを慥かめました——

Fröbel/Friedrich Wilhelm August, mein, des Zeigen Pastoris 5tes Sohn, geb. d. 21 April, als Domin,

Jubiläe geb. d. 23 ej Pathe: (四人の氏名)

(フリーベル——フリードリヒ、ウィルヘルム、アウグストは、われ、即ち時の牧師の第五男として、四月廿一日生誕、以下四人を保證人(代父)として、同廿三日主の祝福に生る(洗禮を受けた事)。

これによつて先生が、一七八二年四月廿一日この家に呱呱の聲をあげられし事明確であります。

先生の御生家のすぐ前に立派な教會堂があります。これは一七七九年、先生の嚴父ヨハン・ヤコブ・フリーベルが村人の爲めに建てたものであります。又生家の裏の小高い丘の上に「フリーベル塔」こいふ高い塔が立つて居ります。こゝは先生が少年時代に家庭が面白くなくて、この丘の上に登つて冥想に耽つたこいはれてゐる所であります。この塔に登りますと、先生の郷土オーベルワイスパッハの山河が一眸に收めらるゝのであります。私は星屑またゝく此の山村に一夜を明か

し、遂にフレールベル先生の往時を偲んだ事でありました。

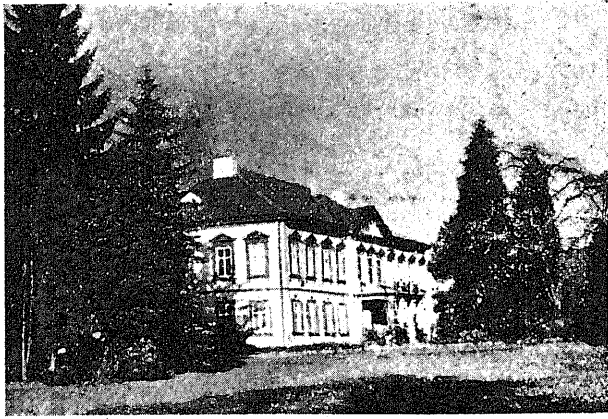
シュワイナ・リーベンシュタイン Schweina Ⅱ Liebenstein

次いで翌日、先生の前半生を費されたシュワルツァートル溪谷地方を去つて、先生の第二の故郷たるシュワイナ・リーベンシュタイン地方へ向ひました。途中道順で、アイゼナツハ Eisenach に一泊しました。この町のかたは、こりなるワルトブルグ城は、嘗つて獨逸の宗教改革者ルーテルが立籠つて、新教運動を指揮するに共に、聖書を始めて獨逸語に翻譯したことで、西洋史上有名な所です。ルーテルの居室や椅子テーブル等も瞥見しましたが古く黒ずんで、簡素を通り越した粗末なものであるのに一驚しました。

フレールベルの故地、シュワイナ、リーベンシュタインは、こゝから支線に乗換へて奥地に入るので。前述のシュワルツァートル溪谷地方が、先生の誕生、修練、苦闘の地であるといふならば、後者なるこゝは先生の晩年大成の地と申すべきでせう。カイルハウ、ブランケンブルヒに居つた時分の先生は、無援孤立、經濟的にも相當に苦勞せられ、剩さへ夫人を喪つて人生の哀愁に沈淪せられたのでありましたが、第二の土地に移り來つたフレールベルは、權力と金力との後楯を以て、力強く立上る一個の闘士であり、一世の指導者でありました。即ちフォン・マーレンホルツビュウロー男爵夫人の知己を得られた故であります。その上に、ルイゼ・レーヴィンといふ若くして美しい第二の仇麗を獲、事業上の發展と家庭の幸福とを併せ持つ、平和にして輝やかしき晩年の地でもありました。

私は先づ、高燥の地に建てられたアルテンシュタイン城趾 Altenstein Schloss を訪れました。さ迄宏莊ではありませんが、典雅にして清麗なる感じの近代造りで、城前の泉水は、昔のまゝに残つて居ります。こゝは男爵夫人の別墅であり、またフレールベルが屢々保育上の會合を催した所です。

次に Bildungsanstalt と呼ばれる、フリーベルの幼稚園、保姆傳習所兼住宅であつた由緒ある一つの建物を訪問しました。リーベンシュタインより程遠からぬマリエンタールの丘、こんもり茂つた杜の梢を透して、白壁の壁が、折からの烈



(ルートンエリマ)家の馬終生先ルペーレフ

日に輝いて見えました。室数は二十もありますか、相當堂々たる建物で、昔は一個の城であつた相です。これ亦マーレンホルツビュウロー夫人の斡旋による事申す迄ありません。先生は晩年此の建物に籠つてその抱懐する理想の實現に努力せられたのであります。一八五二年六月廿一日、七十



(ナイワュシ)墓の生先ルペーレフ

歳の天壽を全うして、先生は此の家の二階南向の角部屋で、平和なる永遠の眠りに就かれました。

「余は最後の一瞬まで自然を楽しみ見て居ります」ミ繰返へしつゝ。(こゝは今ある工場主の住宅となつて居ります)

先生の墓標は、シュワイナの広い共同墓地の中に在ります。球ミ圓筒ミ立方體ミより成る恩物の墓碑、それに先生の美事なブローフィルが銘刻してあります。私は傍の百姓家から、一本の小さきマロニエの樹を購ひ、墓前に記念植樹をなし、合掌して、世界教育史上に於ける英靈の冥福を心から祈つた事で御座います。墓守にきいて見ますと、訪れ詣つる人も稀な由で、地軸の彼方から、はる／＼慕ひ來つたこの異國人を、奇しくも珍らしき者ミ見なしてか、一緒に植樹の事等を手傳ひつゝ、ある限りの歓迎の言葉を通じて呉れました。

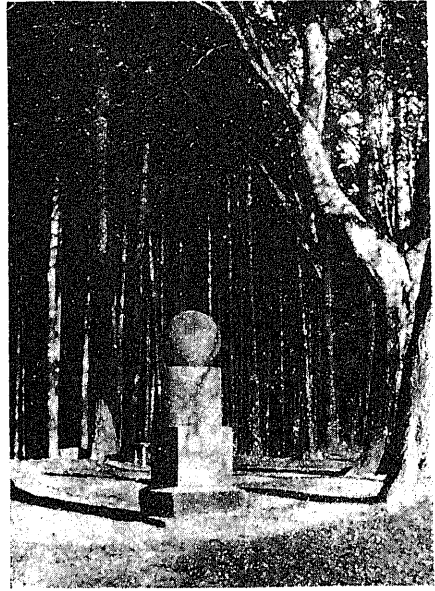
この賤しき墓守の歓迎は、嘗つてロンドンの、巴里の、伯林の、またローマの、貴顯紳士の歓迎の辭にも幾倍勝つて、嬉しく私の胸奥を打ちました。

この墓地から一步轉じて、遙か十數町の彼方、マリエントールの小高い丘の茂りをバックミして、古い一つの碑の如きものが淋しく立つてゐるのを發見しました。同じく球ミ圓筒ミ立方體の恩物型です。„Kommt, lasst uns unsern Kindern leben.“「來れ、子等ミ共に生きん



墓碑銘刻のルベール先生の横顔

哉」ミいふ、先生々前の名句が、かすれ／＼に讀まるゝも床しい。これこそ、先生の歿後、先生に私淑した貧しい一石工の篤志によつて出來た最初の墓標であつたのです。南向のなだらかな傾斜の芝生ミ白樺の木立、見はるかすチューリッゲンの山ミ丘、小春日の香はしき微風、所は聖母マリヤの谷マリエンタール Marienthal、マゴ先生の生前、「馬鹿親爺」ミ村人に罵られつゝ、子供ミ戯れ遊んだミ謂はるゝ、記念すべき地點であります。私は低徊去るに忍びず、恩物の碑標に腰



(墓の初最のルベールフ)標碑の物恩

打かけ、そのかみの事、様々思ひ廻らしつゝ時の過ぐるを氣附きませんでした。フト頭を擧ぐれば、赤陽まさに山の端に没せんとし、木枯の音頃に騒がしく、寒さが肌をさす様に感じましたので、急遽リーベンシュタインの宿所へ引揚げました。

シュワイナにはこの他に、フレールベルの方式に則る「フレールベル・ハウス」いふ幼稚園があり、保姆養成所も附設せられて居ります。ブランケンブルヒのそれには多少見劣りしますが、この片田舎に中々立派な設備であるこ

感心しました。

フランクフルト・アム・マイン Frankfurt am Main

フランクフルトもフレールベル先生は關係の深い地です。即ち先生が二十三歳にして、始めて教師となり、育英を以て學生の事業せせんとの固い決心をかためられた所で、スキスの積學ベスタロッチニ關係の生じたのも此の地からです。私は市の郊外の小公園ホルツハウゼン・パークを訪れ、その池の中に建つてゐる古風な三階建の宮殿風の建物を發見しました。これは一八〇七年から二ヶ年間、先生がこの地の大名ホルツハウゼン公爵 Holkhausen の二人の子弟を預つて教育した所です。この朝名物の霧が深く垂れて、道行く人の姿もさだかには見え兼ねる中に、この城のみは周邊の池面に反映してかクッキリ浮いて見えて居りました。池には白鳥の番らしいのが浮んで、靜威そのものゝ風情で御座いました。「如何

なるフレーベル傳にも、このホルツハウゼン城址の寫眞は載つてゐないのだから、是非寫眞を撮つておく様にこのブリュールファー博士の御意により、拙き腕を揮つた譯ですが、折からの霧に妨げられて、充分の結果は得られませんでした。

私はこれより學都ハイデルベルヒに出で、マインツより川船に投じてライン河を下り、名高いローレライの岩角を右に見て、コブレンツ、ボン、ケルンを経、恙なく伯林に歸る事が出来ました。

私は此のチューリッングンの美しい自然に抱かれ、その環境を見、その人情に接して、始めてフレーベル先生の人となり、事業、思想ミを感受する事が出来た様に感じました。殊に何故先生が子供の教育所も「幼稚園」Kindergartenといふ名稱を附せられたか、また何故植物發育の原理を幼児教育に應用して理論を立てられたか、等を、樹木の美しく繁茂する獨逸のこの「緑の心臓」に來つて、始めて如實に體得實感するを得た様に感じました。

かくして約十日間を費し、フレーベル先生の遺跡を限なく探るに共に、獨逸の秋の田舎を滿喫する事が出来ました。獨逸は目下文字通り非常時で、戦時氣分横溢する中を、日本人未踏の、人里遠き山路を旅し、時には少からぬ危険にも直面しつつ、幸に事なきを得て無事ベルリンに歸還するを得ましたのは、洵に僥倖さも申すべく、これ一に我が熱誠なる江湖幼児教育諸君の御後援による事ミ 感激措く能はざる次第で御座います。(終)

春の歌

— その一 —

曾 根 保

私の病室には櫻プリムローズ草が微笑ほえんでゐる。去年の暮見舞に頂戴した鉢植だが、少しの衰へも見せず咲いてゐる。外には雪のやうに眞白い霜の降りた酷寒あしたの朝にも、暖い微笑を以て私を迎へて呉れたのはこの櫻草だつた。ふくよかで、混り氣の無い濃い緑葉、柔い桃色の花瓣はいさしい少女の感じである。淡い陽ざしに息づいてゐる可憐な姿—氣ざつたところの少しも無いこの花を、私は二月以上も朝夕の友として暮して來た。こんなに永く私の側に居た花が今迄にあつたであらうか。私はこの花を見てゐるを、たゞ自らの生命いのちを樂しんでゐるのださいふ感じを受けない、何かしら深く結ばれるものがあつて、この病人の爲に、靜かに辛抱強く座つてゐるをしか考へられない。折々に机の上を飾る草花も、例へば強い香りをもつ端麗な白百合にしろ、色ミり

ぎりの菊花にしろ、一週間も經つて飽いて來るものなのに、この櫻草に對しては、今迄につひぞ覺えたことのない愛を、そして又感謝を捧げたい氣持になつてしまつた。まだ恢復しきらない私は寒い外氣を恐れてゐるが、一本ひたひの可憐な草花が力強く次々に蕾をつけて生きて行くのをみるに、自分の肉體の弱さを嘲りたくなり、「これでは駄目だ」—と奮ひ起つ氣持が湧いて來る。家の年寄が「今日は立春ですよ」と言つたのは、もう一週間も前のことだ。永らく閉ぢ籠つてゐた私も、早く春の光を存分に浴びてみたい。こんな願ひが心に湧いて來たのも、自分には不思議に思はれる。

「春」云ふに、私は直ぐ島崎藤村先生の言葉を想ひ出す。「春さいふ言葉も、單に季節の感じに過ぎなかつたが、私の

歩いてゐた寂しい道に、漸く夜の明けたやうな氣持がした時、あの『若菜集』の「春」が出来た。これは私の思ひつきではなく、北村透谷の如きも同じ考へであつた。このお話をうかゞつてからは、先生の詩を讀む時、春といふ言葉が特別に目立つて來、又これまで漠然と、不用意に使つてゐたこの言葉に私は妙に別の意味を感じるやうになつた。「詩を作るこゝは、言葉を新しくするこゝだ」こゝといふのが藤村先生の詩作の出發點であつた。「言葉は繰り返し返されるうちに磨りへらされてしまふ。言葉に新しい意味を與へ、又新しい意味に置き代へるこゝ」が詩人の仕事である。明治四十一年の春から『東京朝日』紙上に連載された『春』といふ小説の切抜に、私が法外の金を投じて吝まなかつたのは、先生の「春」こゝといふ言葉に對する感覺に驚き、且つ感激したからであつた。この切抜本の扉にはかつての所有者が『落梅集』から、

ふみ目は覺めぬ

五ミセの

心の醉に驚きて

若きこの身を

ながむれば

はや吾春は
老いにけり

の一節を書き記してゐるのもゆかしい。尙、名取春仙畫伯の挿繪が私には嬉しいのこゝ、百三十五回を最後に「春」が完結して、そのあゝに次回小説「三四郎」(九月一日より掲載)の豫告があつて、作者漱石の言葉が又愉快である。興味ある一文を思ふから、序に豫告全文をこゝに掲げて置かう。

變な標題だかたじけなくと思つて、乍さ座な小説ですこゝに訊くこゝ作者曰く

『田舎の高等學校を卒業して東京の大學に這入つた三四郎が新しい空氣に觸れる、さうして同輩だの先輩だの若い女だのに接觸して色々に動いて來る、手間は此空氣のうちに是等の人間を放す丈である、あゝは人間が勝手に泳いで、自ら波瀾が出来るだらうと思ふ、さうかうしてゐるうちに讀者も作者も此空氣にかぶれて是等の人間を知る様になる事こゝ信する、もしかぶれ甲斐のない空氣で、知り榮のない人間であつたら御互に不運こゝ諦めるより仕方がない。たゞ尋常である、摩訶不思議は書けない』。

さて、春の歌は、「かたまりに鞭うつ梅の主人かな」(蕪村)あたりから始めて、桃、櫻と季節を逐ふのが順序かもしれないが、俳句や短歌は私の柄でもなく、こゝでは勿論英詩に限るこゝになつてゐるのだから、回を逐ふて英詩の春の歌を拾ひ上げてゆかう。だが、今これを書いてゐて、「草あはく青める野べに今日もきてしきりに春の流るゝを見ぬ」ミ歌つた自然ミ愛の歌人、金子薫園氏に春を描いた文章のあるこゝを想ひ出した。氏の春は四月の春である。

「はかない小草の末までも細かい花をつけて、融けるやうに春の陽に煙つてゐる。誰の顔を見ても、のんびりミ平和さうに見える。しかも平和な動搖さもいふべきものが、その中に起つて来る。それは咲満ちてゐる花に風があつて、うすう揺りうごかすやうな軽さである。……郊外に出て春草を踏む心持には特殊の味がある。夕ぐれなぎに草原を歩いて、濕つてゐるやうな柔さが、履物の裏に覚え、又爪先に感じられる時、身内にしみわたつて来る心持は懐かしい寂しみである。一步又一步夕ぐれの氣がだんだん迫つて来る時、ひこりさいふ感じに伴なふ慰なぐさ

安やすみを覚えしめる。身のまはりに誰一人ゐない。たゞ若草ミ自分ばかりである。懐かしい寂しみは、聲を放つて泣かしめるばかりである。……」

まだ早春の或る寒い朝、私は亡き母を想ひ出し、急に紙片に書きつけたくなつて書きこめた拙文がある。題して「寒い朝、亡き母を想ふ」ミいふのである。何のために書いたミ訊かれても返答は出来ない。たゞ、知らぬうちに書いてしまつたミ答へるだけである。

「このやうな冷たい朝でした。お加減が悪かつたのか、お母さんは、時折、濟まないが起きて、お粥をこしらへて下さらない」ミお仰言るのでした。私は新聞紙をちぎつて、くしゃやくしゃに丸め、消し炭をその上に載せて、強く團扇であほり立てゝ火をおこしました。そして、お芋の皮をむくのですが、手に白い芋汁がつくのには閉口でした。皮をさるミ、左の掌に白いお芋のをせ、右手にもつた庖丁でボキン、ボキンミ切つて鍋の中へ落します。お鹽を入れるのを忘れた時なき、お鹽の有難さがよくわ

かりました。お鹽は物を辛くもするものなのですが、又同時に甘くもするものだといふことを知りました。お母さんは「濟みませんでした」を仰言つて、私のこしらへた妙なお粥を食べて下さいました。その頃親子二人は狭い狭い、やつと身を入れるだけのお部屋に往んでゐましたが、神様に感謝して、有難くお粥を頂戴しました。漬物さへ無いこともありましたが、本當に毎日満足して、未來の希望の光に導かれて暮しました。二人が雨露を凌いでゐたこのお部屋は大きなお庄屋さんのお家の一隅でした。お庄屋さんのお家には駈めしい背の高い「おちさま」を優しい小柄の「おばさま」が、婚期を逸した、よく肥えた「お姉さま」——始終さう呼んでゐたので、今そのお名前を想ひ出せませんが、とても優しいお姉様でした——そして、氣の狂つたお兄様がゐられました。「氣狂ひさん」は私達の狭いお部屋を時に襲つて持物を荒すので閉口しました。しかし當時の私達には支那鞆が一つ、柳行李が三つ四つ、さういふ位の財産しか無かつたのですから、いくら、ひつ掻きまはしても、中からは別段氣狂ひさんのお

氣に召すもの——お金でしたが——は出て来ることはありません。でも、相手が何しろ氣狂ひなのでさうにもなりませんでした。龍華寺前の谷川を堰き止めるのだと言つて、毎朝毎晩大石小石をかかえて行つては投げ込むのです。町の人も全くもて餘してゐました。いつか春の遠足の前日のことです。私が三角のお握りを焼いてゐますと、氣狂ひさんが入口をうろうろするのです。私は入口の脇に掛けてあつたお母さんの着物の中にもつと身をひそめてゐますと、氣狂ひさん、忍び足でお握りをめがけてやつて來ました。もう一步で獲物を手に入れるといふ際ぎい瞬間、私は飛びかゝつて、いやさういふ程、背をぶつてやりました。本當に吃驚したらしいのです。「かんにんして下さいよ、かんにんして下さいよ」泣き聲を出して逃げて行きました。私が中學二年生の頃の事です。その頃私はたゞお母さんの温い胸に抱かれて、極めて柔順に、平和な日を過してゐました。日曜學校のお手傳をして、幼い人達に「ダビデミゴリアテ」の話をしたり、「彦作の隠れ蓑」なき、お伽噺をしたりしたのを想ひ出します。

教會の鐘を撞くのは大抵私の仕事とされてゐました。東京にゐて、夕方など、ニコライのあの華やかな鐘の音を聞く時、そとろに宇和島の教會の鐘を想ひ浮べます。又鐘のない教會に行く事もありますが、鐘のない教會ほど私にさびしいものはありません。……お母さんが亡くなられてもう二年になります。何一つ思ふこともして差上げず、永の別れになつてしまひました。……今はもう寒い日も過ぎて春らしくなりました。春は春で、お母さんと一緒に妙典寺前の田圃で摘草をしたこともありません。私はお母さんの行かれるころへは影のやうについてまはりました。父を早く失くした私には、お母さんがこの世で一番貴い偉いお方でした。學問でも人格でも、お母さんほどの人は未だ曾て見たことがありません。『前赤壁賦』など、私はお母さんから教へていただいたのです。私は何處にゐても、何をしてゐても、お母さんの御靈がちゃんと私を守護して下さることを信じてゐます。寒い日も過ぎました。春草の香ひが懐しく思はれます。私はお母さんの御姿を毎日探し求めてゐます」。

私の想像は急に昔に飛んで行き、想ひ出は、それからそれへに際限も無く擴がつて行く。しかし私は筆を元もとにかへさなければならぬ。

春を詠んだ英詩は、その數も可成り多いことだらうと思ふ。大抵のアンソロジーの冒頭を飾つてゐるトマス・ナッシュの有名な春の歌が直ぐ想ひ出されるのであるが、それは後にゆづり、今は十九世紀に於てテニスと並び稱せられたロバート・ブラウニングの『ビバの歌』を考へてみることにする。

The year's at the spring
And day's at the noon;
Morning's at seven;
The hill-side's dew-pearled;
The lark's on the wing;
The snail's on the thorn:
God's in his heaven
All's right with the world!

この詩は單獨の作ではなく、劇詩 *Pippa Passes* の中の主人公 *Pippa* の歌である。従つて詩の標題はないが、普通『ビバの歌』と稱せられて

ゐる。わが國では上田敏氏の譯があり、これが名譯の評判

高く、よく引用されるので廣く一般に知れ渡つてゐる。福原麟太郎氏は『英文學の輪廓』にいふ著書の中で、

「何が名譯だと言つても、上田敏氏のブラウニングが「ピッパのうた」(“Pippa's Song”)の譯

時は春

日は朝(あした)

朝は七時

片岡に露みちて

揚雲雀なのりいで

蝸牛枝に這ひ

神そらにしろしめす

すべて世は事もなし

に優るものはなからう」。と言つて、土居光知氏の批評を引用してゐられるが、土居氏の『文學序説』を繕いてみると、

「譯詩としてこれ以上に原作の面影を傳へることは至難である。しかし原詩に於いては始めより終りまで二脚音行よりなり、少女の朝のさわやかな感興が直接に與へられるのであるが、譯詩に於いて五音節を重ねた行から稍々客觀的な敘述になり少しく直接さが失はれてゐるの

ではあるまいか。

こある。私は原詩の鑑賞にはいる前に、この短詩にさへ色の譯しぶりがあつて、詩の翻譯のむづかしさを披露してみたい。先づ古いころでは『宗教と文藝』といふ雜誌に載つた、植村正久氏の譯

年は春、日は朝、朝は七時、山腹は眞珠なす露ぞ濡ふ、雲雀は飛び立ちぬ、蝸牛は茨が上に在り。神其の天に在り——世界はすべて是なり。

同じく宗教界の重鎮であつた内村鑑三氏の譯

年は春なり

日は朝なり

朝は七時なり

山側は露に輝き

雲雀は空に舞ひ

蝸牛は叢林に戯る

神は天に在り

此世の萬事可なり

前第三高等學校教授栗原基氏の譯

時は春

日はあした

朝は七時

丘に露の珠

雲雀飛び

蝸牛は茨に

神は天に

世は平和

早稻田大學教授であつた横山有策氏の譯

時は春

日は朝

朝は七時

山腹は露の玉

雲雀翼をひろげ

蝸牛はいばらに

神天にゐます

此世の事皆正し

同じく早稻田大學の教授帆足一郎氏の譯

年は春の日、日は朝日

朝は明け六つ、山陰は

露の眞珠を懸けたやう

雲雀は空に、蝸牛は

茨に棲まり、神様は

天に在し——萬物は

けにも正しく世を渡る

最後に、中川竹太郎さいふ人の譯

年は春、而して日は朝、朝は七時

丘の麓に露の玉は麗らに輝き

雲雀は高く飛び、蝸牛は角を出し

神は天にあり凡ての物は世界を調和せり

以上七種の翻譯ぶり、及びその巧拙は、この詩の解説を

御覽になつた上で試みられ、ば相當面白いことではないか

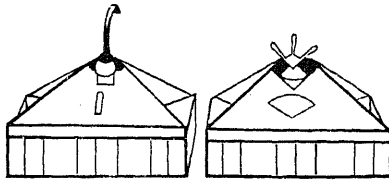
と思ふ。

(つゞく)

おひな様

及川ふみ

今年のおひな様はひろげて平にしてもちかへるのに便利
なものが出来ました。



別圖(實物大)第一圖は親王様

第二圖は内裏様

用紙畫用紙八ツ切大

一、親王様のつくり方

第一圖のうち高座の前面ミ側面

のミところは緑、黄、赤、緑、黄、

赤ミ三色にぬりわけける。

親王様の着物の部分は青の無地

か、或は白地に青、黄、なぎで小

笏は黄色か茶色にする。

圖のうち點線のミところは折り目をつけ、實線のミところは
切りおます。

高座のまわりは二重になるわけであつて後側の無地の横
に、前の三色にぬりわけたものを重ねるやうにする。

二、内裏様のつくり方

第二圖の高座のつくり方は親王様と同じ。

内裏様の着物の色は赤、かば、の無地か、白地に赤な
ぎで小紋式に模様をつける。

下着の色をかへてぬる。

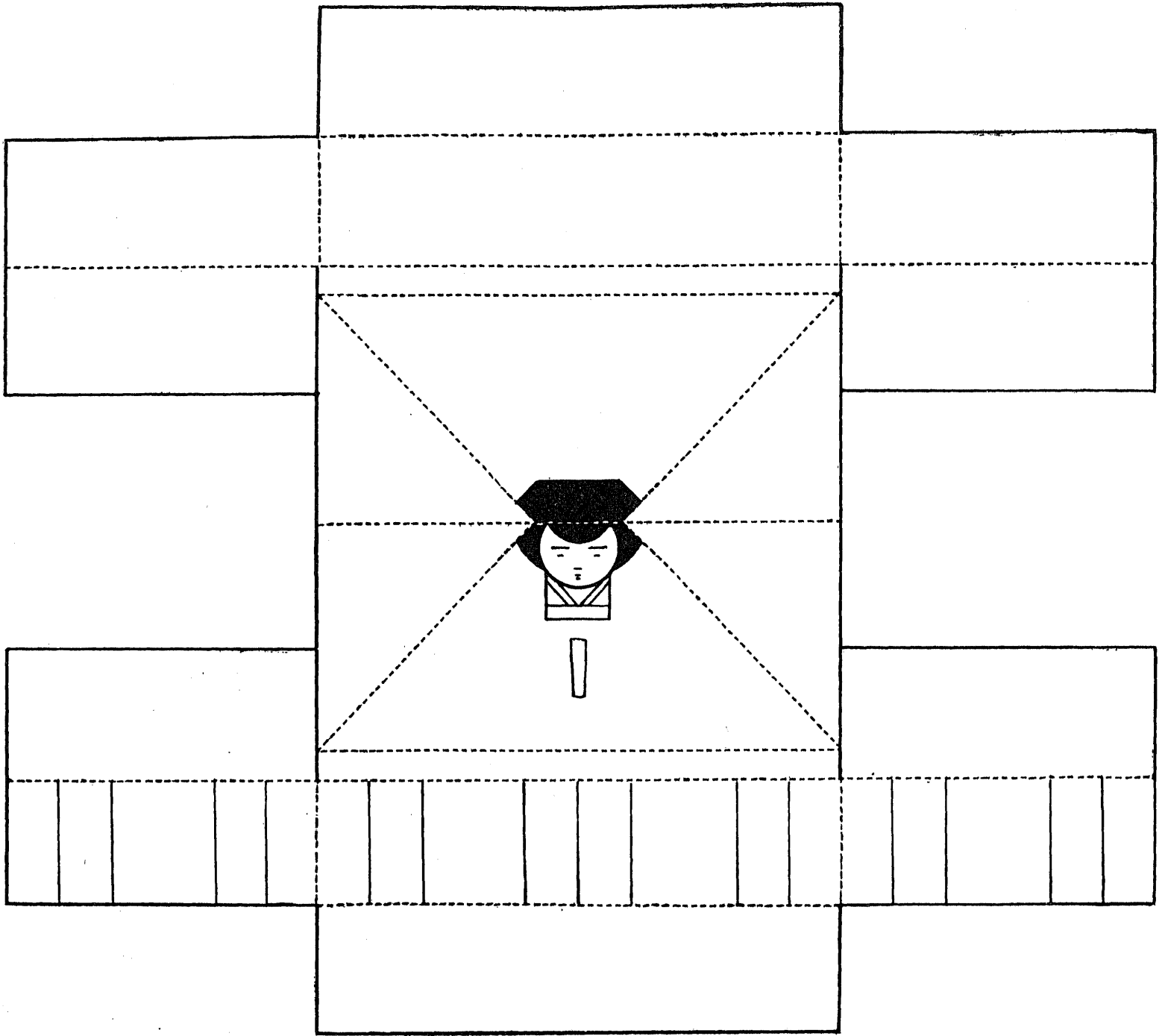
檜扇は着物ミうつりのよい色にぬる。

その他のつくり方は親王様に同じ。

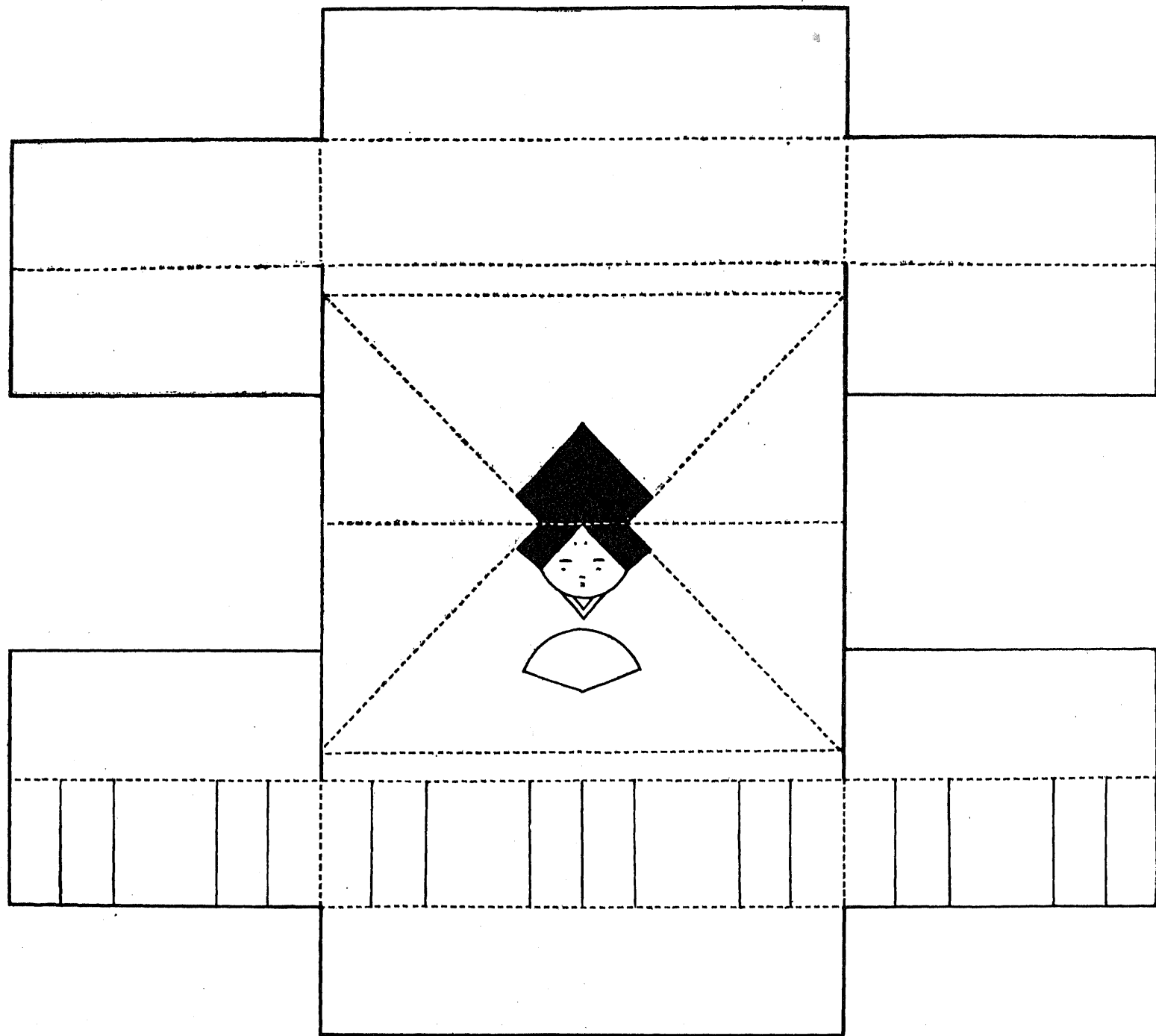
親王様の冠は別の紙でつくり前の部分だけ糊づけにして

紋式の模様をつける。

下着が少しのぞいて見えるところは別の色でぬる。



第一圖



第二圖

おく、これはひろげて平にするまきに都合がよいからである。

三官女や、五人囃なぎをこの形でつくつてよいのであるが、臺の高さを内裏雛の三分の一位の高さにし、全體の大

内裏様の冠も親王様同様に別の紙にてつくる。やはり前だけ糊づけにする。

さも内裏雛よりも一廻り小さくつくれば恰好がよい。

保育實習科生徒募集

(官報拔萃)

本年四月入學セシムベキ保育實習科生徒ヲ募集ス其要項左ノ如シ。

昭和十二年一月

東京女子高等師範學校

一、募 集 人 員 凡ソ二十四名

二、學 資 學資ハ總テ自費トシ授業料年額金五十五圓ヲ徴收ス。

三、選抜試験及身體検査 選抜試験ハ二次ニ分チ之ヲ施行ス第一次ハ全志願者ニ對シ之ヲ行ヒ、第二次ハ第一次ニ合格シタル者ニ對シ之ヲ行フ。

第一次試験 國語(解釋、作文) 理科(植物) 圖畫(自在畫)

第二次試験 音樂(唱歌) 身體検査並ニ口頭試問

四、出 願 期 限 二月一日ヨリ同二十八日迄

五、試験 及 檢 査 期 間 三月十二日同十三日ノ二日間

六、出願受付試験及検査場所 東京市小石川區大塚町東京女子高等師範學校

右ノ外生徒募集ニ關スル詳細ハ之ヲ記載セル印刷物ニ就キ承知スベシ此印刷物ハ直接本校ニ就キ受領スルカ、又ハ貳錢切手ヲ貼附セル封筒ヲ添へ郵便ヲ以テ之ヲ請求スベシ。

ちんくこばかま

小泉 八雲

牧 滋譯

日本のお部屋の床には蘭草を編んで作った美しい厚い疊かさねといふ敷物が敷いてあります。疊かさねは年々大層びつたりきつ合つてゐますので、その間には小刀の刃を入れる事がやつつ出来る位です。疊は年に一回取り換へられ大層清潔きんげいにしてあります。日本人は家の中では決して履物をはきません。又イギリス人が使ふやうな椅子等を使ひません。日本人は疊の上に坐りもし、眠りもし、食事もし、時には書き物も致します。ですから疊は非常に清潔きんげいにおかねばなりません。それで日本の子供は口がきける様になるきすぐに、疊を傷けたり汚したりしない様に教へられます。

さて、日本の子ぎもは本當に大變善い子ぎもです。日本に就いて面白い本を書いてゐる外國人は誰でも皆日本の子ぎもがイギリスの子ぎもよりもつつくく從順で、すすっっきおきなしい子供だだといふ事を言つてゐます。日本の子ぎも達は、物を傷けたりよよごしたり致しません。そして玩具ををこわしたりも致しません。小さい女の子でも自分のお人形ををこわしません。いえ、いえ、大變大事にして、大人になつてお嫁入りしてからも持つてゐます。お母さまになつて娘を持ちますまき、そのお人形を自分の

娘に譲ります。又貰つた子ぎもお母さまがなさつたと同じやうに、そのお人形を大切にし、大人に
なるまでそれを持つてゐて、又それを自分の子ぎも等に與へます。子ぎも達はお祖母さまがなさつた
と同様にそのお人形を仲よく遊びます。皆様はこの短いお話を書いてゐる私は、日本で、百年以上も
經つてゐますのに、まるで新しい時の様に美しいお人形を見た事があります。日本の子ぎもがみんな
におきなしいかと言ふことはこれでもお判りでせう。又あなた方は日本のお部屋の疊たたみがいつも清潔きれいに
なつてゐるわけもお判りになるでせう。悪戯遊びのために引つ搔かれたり傷がついたりしないで……。
日本の子ぎもは皆そんなに善い子ばかりでせうか。

さうですね——さうではありません。少しは、ほんの少しは、いたづらっ兒がごさいます。それで
はそんな子ぎものお家の疊はさうなるでせうか。

あんまりひびくはなりません。何故つて、疊を大事にする疊の精が居りますから。この疊の精は疊
を汚したり傷けたりする子ぎもをいぢめたり怖がらせたりするのです。ほんまにそんないたづら兒達
をいぢめたりおぎしたりした事があります。私はそんな精が今でもやはり日本に居るのかよく存じま
せん。何故なら汽車や電信柱が出来て澤山の精をびつくりさせてしまひましたもの。けれどこれから
その疊の精のお話を致しませう。

*

*

*

*

昔、かはい、お嬢さまがございました。大變美しいお嬢さまでしたが、又大變お怠け者さんでございました。お嬢さまのお父さまはお金持ちで、お家うちには随分大勢の召使ひが居りました。そして召使ひ共はお嬢さまが大好きで、お嬢さまの爲に何でもして差上げるのでございました。お嬢さまがお獨りでお出来にならねばならぬ事までして差上げました。それできつにお嬢さまがそんなにお怠けさんになられたのでせう。お嬢さまは大人におなりになりましたもまだやつぱりお怠けさんでございました。けれどお女中達がいつでもお着物をお着せしたり、お脱がせしたり、お髪を梳いたり致しましたので大層御立派に見えまして、誰もお嬢さまのお悪いところに氣が付きませんでした。

さう、お嬢さまは勇しいお侍さまのころへお嫁にいらつしやいました。それでお侍さまも御一緒にお里を離れてお住ひになる事になりました。

今度のお家には召使ひは少し、か居りませんでした。お嬢さまはお里で使つていらしたやうに大勢の召使ひが居ないところがたまりませんでした。いつもお傍の人がして差上げてをりましたこともお獨りでなさらなくてはならなくなりましたもの……。お着物をお召しになるのも、ご自分のお着物のお手入をするのも、且那さまのお氣に召すやうにさつぱり美しい容なりをしていらつしやるのも、お嬢さまには大變難儀でございました。けれど且那さまはお侍さまでございまして度々お家來達を連れて遠くへお出かけにならねばなりませんので、たまには好き放題にお怠けをする事がお出来になりま

した。旦那さまのお父さまやお母さまは大變お年寄りでおやさしくていらつしやいました。決してお嬢さまをお吐りになりませんでした。

さて、或晩、旦那さまが家來さお出掛けになつてお留守の時に、お嬢さまはご自分のお部屋で奇妙な小さい物音に目をお覺ましになりました。大きな行燈のあかりでよく御覽になりました。それは奇妙な物でございました。さあ、一體何でございませうね。

一ぱいの小人なんです。丁度お侍さまのやうないでたちでございしますが、脊丈がたつた一寸位の小人でございます。それがお嬢さまのお枕をすつかり取り巻いて踊つてをりました。小人は旦那さまが旗日にお召しになるのと同じものを着てをりました。肩の角張つた長い上衣、つまり袴でございします。髪はちよんまげに結つてゐました。そしてぎの小人も小さな大小を差してゐました。皆踊りながらお嬢さまを眺めてひやかし笑ひをしました。そして同じ歌を皆で繰返し繰返して歌ひました。

ちんくこばかま、夜も更け候――

お静まれ 姫君!!

やアトントン

言葉は大層丁寧に思はれましたけれど、お嬢さまに向つて意地悪いおぎけをしてゐるこごがすぐお判りになりました。お嬢さまに向つてアカンベをしたり致しました。

お嬢さ

まはご

れかを

捕まへようこ

してごらん

になりました。

が大變速く跳び廻

りますので捕へるこまがお出来になりません。そこで追つ拂

つてしまはうこなさいました。けれどいつかな出て行かう

さいたしませんし、ちつこも歌ひ止めませんでした。

「ちんく、こまかま……こま。

又笑ひ止めもしませんでした。それで、これはあの小さな精

だまお氣つきになりました、大層怖ろしくなつて聲を立てる

こまもお出来になりませんでした。小人は朝までお嬢さまの



まはりで踊りました。

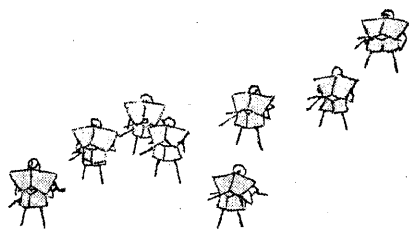
——朝になりますとふ。こ消えてしまひました。

お嬢さまはこの出来事を誰にお話するのも恥づかしうございました。何故つてお嬢さまは「お侍の妻」でございますもの。みんなにだつてあんなにびく／＼していらした事が知れるのは厭でございます。

次の晩又小人共はやつて来ては踊りました。又その次の晩も参りました。毎晩毎晩——。いつも同じ時刻に。その時刻を昔の日本人は「丑の刻」に呼んで居りました。それは私共の時計では大體夜中の二時でございます。さう／＼お嬢さまは寝不足を恐ろしさから重いご病氣になりました。それでも小人は来止めませんでした。

旦那さまはお歸りになりますと、病氣でおやすみになつていらつしやるので大層ご心配になりました。初めの中お嬢さまは何で病氣になられたかをお話なさるのをこはがつていらつしやいました。きつと旦那さまが「馬鹿な」を笑ひになるだらうと思ひになつて。けれども旦那さまは大變親切でしたし、やさしくおすかしましたので間もなく毎晩の出来事をお話しになりました。

旦那さまはちつともお笑ひになりませんで、一寸の間大變眞面目なお顔付をしていらつしやいました。がやがてお尋ねになりました。



「何時頃それは出て来るのですか」

お嬢さまはお答へになりました。

「いつも同じ時刻にまゐります。——丑の刻に」

「よろしい——今夜私がかくれてゐて見張つてゐませう。怖がることはありません」。こおつしやいました。

そこでその晩お侍さまはお寢間の押入の中に身をかくしていらつしやいました。そしてふすまの隙間から見張つていらつしやいました。

丑の刻まで見張りをしてお待ちになりました。するに突然小人が疊の間から出てきました。そして踊りこ歌を始めました——。

「ちんくこばかま 夜も更け候。

.....

それが餘り奇妙な姿をしてゐて、あんまりおぎけた恰好に踊りますのでお侍さまはもう噴き出しさうでございました。けれども若い奥方はぶるく震へていらつしやいますし、日本の幽霊や悪鬼は大抵皆刀を怖がるものだこいふ事をお思ひ出しになりましたので、刀を抜き放つて押入から飛び出し踊つてゐる小人をめがけて打ちこまれました。

こ、忽ち皆變つてしまひました——

何に變つたかと思ひになりますか。

妻楊子ですよ。もう小さな侍共は居りませんで、たゞ疊の上に古楊子が澤山澤山散らばつてゐました。

若い奥方はお怠けさんで、ご自分の妻楊子をちやんまお始末なさいませんでした。毎日新しい楊子を使つては面倒で始末をなさらないで疊の間に突きさしてお置きになりました。それで疊を守る小さな精共が怒り出しました。

そして奥方をいぢめたのでございます。

旦那さまは奥方をお叱りになりました。奥方は大層恥づかしくお思ひになつてさうしてよいかお分りになりませんでした。一人の召使ひが呼び出されて楊子は取りのけられ焼かれてしまひました。その後は小人共はもう二度と戻つてきませんでした。

*

*

*

*

怠け者のお嬢さまのお話がまだございます。そのお嬢さまは梅ぼしを食べてその後でたねを疊の間にかくしてしまふ癖がございました。長い間見附けられずにさうしていらつしやいました。けれどもさういふ疊の精が怒りました。そしてお嬢さまに罰をあたへました。

毎晩小さなく女子共が——皆長いくお袖の真紅な着物を着て——同じ時刻に疊から起き上りました。そして踊つたり顔をしかめたりしてお嬢さまを眠らせませんでした。

お母さまが毎晩見張りに坐つていらつしやいました。さうしてそれをごらんになつてお打ちになりました。——するにそれは皆梅のたねに變つたのでございます。そこでそのお嬢さまのお行儀の悪い事がばれてしまひました。其の後はお嬢さまは本當に善い善いお嬢さまにおなりになりました。

幼き者を「ひきいたす」ころ

— フレーベルにうたれつゝ —

齋藤善太郎

「何こいふ敬虔さであらう、」私は今フレーベルを讀みながら、實にさう撃たれたのでした。讀んでゐた所こいへば、

レクレム版の「人の教育」にして七一頁以下、一一五頁までのところで、大體幼児期のこゝをこまごまこゝ、具體的に扱つてゐるところで、大してフレーベルらしく思想的乃至は宗教的でもない所であります。食物ミか着物ミか、幼児の扱ひ方のこゝなきが主になつてゐる所であります。しかしそれで、其のかげを貫いてゐるフレーベルの精神の敬虔なるいぶきが、なんさなく吹きつけて來るやうな氣がするのです。(そして此の事は、たぶん私一箇の主觀的感じのみでは無く、例へば有名な序説の所、「人の教育」の最初の所なきに、結晶して、富嶽の如く聳え立つあのフレーベル的精神の、客觀的ないぶきが、こゝにも吹きつけて來てゐる

のである、と思ひます。)

同じ所を讀みながら、

「まさしく、引き出す、エールツィエン erziehen するものは此のこゝだ」こゝ、人のよく言ふ *Educatio* 以來の「教育」こゝいふ言葉に宿るこゝろは之だなき、更めて想ひ、教へられてゐたのでした。「内部」も無く「外界」も無く、それから未分以前の世界にありながら遊戯しつゝある子供、しかし其の子供の内部には既に本有的に「本質」が潜み、眠つてゐる、そして今遊戯しつゝ、其の「内なるもの」、内部的本質が——ギリシヤの海の中からヴィナスが生れいづるやうに——そうつゝ生れ出でつゝある、父よ、母よ、人々よ、「靜かにく」、こゝいふやうにして「遊戯」を通じての成長を語るあたりなき、單なる保育、こゝろでない、そこには大

な背景がある、大きな宇宙がある、さういふ宇宙、大自然、「自然」の中から、今子供が、若しくは本来の子供が、生れつゝある、我々は然うものとして子供を見守りつゝ、子供をば大きな「自然」の中連れてゆかねばならぬ、さういふやうにして述べてゐるあたり、私は、「引き出す」さういふことは斯うも嚴かなものか、敬虔に撃たれながら、更めて其の仕事の深さ、大いさをつくづく——秋の眞澄の空に觀入るやうに——想はしめられました。(おそらく、かうして見ます、)「引き出す」は、今文化に關してやかましく云はるゝヒューマニズム若しくは「人本的傾向」の問題とも關連して、もつぎ／＼反省しない、つい「引き出す」この意味をさりそねて、こざかしくも小手先の扱ふことに終るんだなあ、更めて反省せしめられます。そして之もやかましく云はれてゐる所謂宗教教育の問題とも觸れて、「我はたゞ水注ぎ草ぎるもの、育つるものは神なり」(詳しくはコリント前書第三章)のこゝろに、もつぎ／＼徹しきらねばならぬなあ、と思はれます。そして私を、たゞはばカールバルト的研究をそゝりたてゝくれます。

速習英語會話講習會特設

世界教育會議はいよ／＼此の夏に近づきました。幼稚園、學齡前部にも多くの有力なる權威者が世界から集まられる事と思ひます。我國の方の出席者諸君もそれを樂しみにされてゐるこゝであります。

就てはその會で外國の方々を接する前に、英語の耳ならし、口ならし、をして置くことは、極く必要であり、多數の方の御希望でもありません。

東京保姆傳習所を會場として催される、次の會は、そのため至極適切のものに信じます。

倉橋惣三

▼期間 五ヶ月間

自二月十五日(毎週、月曜日、水曜日)
至七月十四日(夜ノ部午後三時—五時)

▼場所 小石川區原町一〇一 東京保姆傳習所

▼講師 一、エル、グレセツト

一、エツチ、タツピンゲ

講習料一ヶ月ニ付 四圓

此の外に手数料として入會の際金一圓也を申受けます。

▼尙右の會に御興味のある方々の御出席を希望致します。

自他一如

大塚 喜 一

堺市で関西聯合保育會が開かれた昨年十月十七日の前日、大阪郊外なる濱寺幼稚園を訪問した。今日こゝをお訪ねした一つの目的は子供達が樹登りをしているときいてその實景を見たかつたからであつた。果して子供達は猿の様に云ひたい程の脈々たる原始感情を湧き立たせつゝ松樹なる「大自然」の中に活潑に躍動してゐる。それを觀ながら主任の先生と話し合つた。先生は曰く

「樹登りは大人が案じる程危険なものではない。子供はチャンと知つてゐる。只、先生の見てゐないところでは登らないこゝにしてある。子供にこつてこんなよい運動はない」

話す中、夏の海の遊びのこゝになつた時先生は

「うきさへ持たさなければ大丈夫です」

と言はれた。このお言葉は小生の心胸に食ひ入つた。子供は海水の一如の境、それを妨げるものはその間に入る「うき」である。この妥協的な補助物は却て生きた直接の境を破るものとなる。これは決してこの水泳の一事のみではない。

設備や物は、幼児の活動を誘發する様に活用せらるゝこゝもあれば、却て幼児の生活の活機を滅殺し束縛するこゝもある。この死活は實に保母その人によりて定るこゝが最も多い。茲に於て吾人は

「材料は子供の中にある。設備は保母と子供の間^①に生れる」

なる語の眞意を悟るのである。

*

二人の母あり、互に一人の子を我が子なりと言ひ

争ひて法廷^{てい}に訴へ出づ。裁判官はその一人の子の手を兩方より二人の母をして引かしむ。産みの母は子の泣くに驚き我知らず手を離せしが、他人なる女は力に任せて子の手を引きたるにより、その何れが眞の母なるかが美事に判定せられたり」

去る十一月十三日蘆谷蘆村氏の「日本童話起原論」を聴く中に引用せられたるこの有名なる物語、勿論前から知つてゐたが、其日は次の様な事が考へさせられた。

眞の母の尊さは母子一體、自他一如の境にある。然るにこの境を破るものは、利己心や便宜や結果をあせり求むる心、自分の思ふ様に相手を動かさむとする心である。この物語の如きは稀有の特例の如くであるが、日常我々が幼児と相交る中に、自分の小我の方へ幼児を引張らうとする態度、情念が動もするに働くこゝがあり、その根性を省れば前の偽の母と同類である事、實に慚愧の至りであるを思はしめられるのである。

この物語は粗野にして本能のまゝなる母を戒めたものであらうか。又は似而非教育者に對する警告であらうか。

吾人は諸先輩を始め廣く讀者諸賢の聰明なる御教示を乞ふべく、この稿を草した次第である。

雪の朝

戸あけてよ、

プール御覽なさい

ブランコ御覽なさい

少し風が動いてる、

ブランコ、誰かのつてますわ

あ、雪がつもつてるんだわ

少し風で動いてる。

(「人形の耳」より)

誘導保育案の一例

東京市麴町區富士見幼稚園

註

この保育案は去る十二月一日東京市麴町區富士見小學校公開教育の際、幼稚園として研究發表されたものであります。之に就きましては本誌三十七卷一月號の山村氏の稿を御参照下さい。

(編輯部)

年長組

四				季節
4	3	2	1	週
天長節	靖國神社		新入園児 おむかへ	主題
3. 2. 1. 國室内式 旗内練習 製作(手技)	5. お池つくり(砂遊び) 4. お花見 3. お散歩(附近) 2. 春のお祭り 1. おまわり		唱歌 お土産 遊戯會	計畫及び材料
1. 國家的のお祝ひをよるこび むかへる	4. 各項目との聯絡 3. 生活訓練 2. 私達の幼稚園と靖國神社 1. 皇國的信念を養ふ		2. 各項目との聯絡 1. やさしみ	期待效果
室内祝賀式に参加 室内裝飾各室内入口	參拜(毎週月曜日) お散歩(參拜のかへりに) お花見(三回) 境内よりつらいて附近へま で進む		舊園児のみの作業	備考

六		五月				月		季節
2	1	4		3	2	1	5	週
靖國神社		遠足	お誕生祝	靖國神社		端午の節供	お誕生祝	主 題
2.	1. おまつり 製作(境内模型に)	1. 園外保育	2. 1. お祝ひの會 贈物、茶菓接待	3. 2. 1. おまぬり お散歩(觀察) 製作(どおりぬ)手技 (お池の箱庭)(男) まんど(女)	3. 2. 1. おまぬり お散歩(觀察) 製作(どおりぬ)手技 (お池の箱庭)(男) まんど(女)	3. 2. 1. 人形おかざり お供(物づくり)手技 おまつりの日の用意 (唱歌)	2. 1. 唱歌、遊戯、お話の會 贈物	計 畫 及 び 材 料
2.	1. 同前月 共同製作興味 完成のよろこび	3. 2. 1. 心身を鍛錬し、快活なる氣 分に浸させる 自然に親しむ 保護者と皆揃つて出かける 喜び	同前月	同前月	同前月	3. 2. 1. 我國古來の美はしい風習を 偲ぶ 年中行事に對する興味 各項目との聯絡	2. 1. お友達のお祝を共に喜ぶ 各項目との聯絡	期 待 效 果
同前月			五月生れの者	まんど(境内にて)	同前	當幼稚園卒業の一年生招待	四月生れの者	備 考

九		七			月		
2	1	3		2	1	4	3
おまつり	筑土神社の	お誕生祝	靖國神社	夜神樂坂の店	七夕祭	お誕生祝	夜神樂坂の店
4. 3. 2. 1.	製作 おまつり ごっこ	同前月	2. 1. 観察(国防館)	6. 5. 完成、賣買遊び	2. 1. 七夕祭のかざりつけ(手技)	同前月	4. 3. 2. 1. 金魚賣り 植木鉢賣り 繪本賣り ほたるうり 手技
5. 4. 3. 2. 1.	生活経験發表 實生活の興味 共同生活のよろこび 各項目との聯絡	同前月	同前月	同前月	3. 2. 1. 年中行事の興味 美觀の養成 各保育項目との聯絡	同前月	5. 4. 3. 2. 1. 生活經驗發表 製作に對する興味 社會生活興味 完成のよろこび 各項目との聯絡
見物及び参加	小學校のお祭ごっこ	一學期最後の集りとする (七月生れ入 月十五日ま で生れ)	參拜について特に注意	同前月	小學校七夕祭にも參加	六月生れの者	1. 六月上旬より七月上旬にかけての生活 2. 夏の夜店の感じを充分に表はす

		十月					月		季節	
1	5	4	3	2	1	4	3	週		
明治節	お誕生祝	靖國神社			遠足	運動會	お誕生祝	お月見	靖國神社	主題
2. 1. 祝賀式準備(年長組)	同前月	4. 賣店、賣品準備餘興、其の他 3. 話合ひ 2. 秋のお祭り 1. おまねり	3. 製作つとぎ(模型) 2. おまつりごっこ開始	3. 運動會ごっこ準備 2. 他校運動會見物 1. 本校運動會參加	3. 運動會ごっこ準備 2. 他校運動會見物 1. 本校運動會參加	同前月	1. 製作(おそなへ物) 4. 製作(神社模型) 3. 蟲屋ごっこ 2. 蟲とり(男)まごこと(女) 1. おまねり	計畫及び材料		
1. 國的信念を養ふ	同前月	4. 各項目との聯絡 3. 共同作業の喜びと完成のよるこび 2. 生活經驗發表 1. 秋の自然觀察	3. 共同作業の喜びと完成のよるこび 2. 生活經驗發表 1. 秋の自然觀察	2. 自洽的訓練及び協同一致の精神を養ふ 1. 體育	2. 自洽的訓練及び協同一致の精神を養ふ 1. 體育	同前月	1. 年中行事の興味 2. 觀察 1. 同前月	期待效果		
小學校祝賀式に参加	十月生れの者	3. 例祭の氣分を現し十一月上旬まで生活を續ける 2. つとして充分に發展させる 1. 秋に入つた感じを充分に觀察する	2. 二學期の主なる生活の一つとして充分に發展させる 1. 秋に入つた感じを充分に觀察する			八月十五日以後生 九月生れの者	小學校お月見に参加 神社模型製作にあつてはその都度觀察に行く	備考		

月 二 十				月 一 十			
4	3	2	1	4	3	2	
お誕生祝	皇太子殿下御誕生奉祝	歳末大賣出し	靖國神社	お誕生祝	靖國神社	七五三祝	靖國神社
同前月 劇あそび練習	旗行列	4. 3. 2. 1. お買出しの用意 かんばん その他	おまわり	同前月	境内観察 1. 運動會ごっこ 2. 落葉拾ひと製作	2. 贈物 1. お祝ひの者を中心としてお客様遊び	1. おまわり 2. おまつりごっこ完成 3. 菊花大会
各保育項目の効果を充分に表す	皇太子殿下御誕生を奉祝す	4. 各保育項目との聯練 3. 自治的訓練 2. 生活訓練 1. 社會生活に對する興味		同前月	同前 秋の自然觀察	お友達のお祝を喜び合ふ	同前 社會生活興味
十二月生れの者	宮城遙拜	歳末のせわしさと各商店の特長を表はす事につとむ		十一月生れの者	十一月生れの者 小學校に準じて		

二		月			一		季節
2	1		3	2	1		週
のりもの展 覽會(男) 人形あそび (女)	まめまき	靖國神社	のりもの展 覽會(男) 人形あそび (女)	郵便ごっこ	お正月遊び	靖國神社	主 題
1. 同前月つりき 2. 同前月つりき	1. おめ 2. まめまき	1. おまいりとお話 2. 遊就館	1. 空箱應用(手技) 2. 畫用紙製作にて きせかへ人形(手技)	1. 通信あそび 2. 製作 繪葉書 切手 配達靴等	1. かるた遊び 2. 双六あそび 3. たこあげ、はねつき 4. かるた、双六、製作	同前月	計 畫 及 び 材 料
同前月	家庭年中行事	観 察	1. 観 察 2. 製作に對する興味 3. 社會生活の興味 4. やさしみ	同 右	1. 新年を迎へたよろこび 2. 文字に對する興味 3. 數に對する興味		期 待 效 果
同前月			三月までつりく 三月までつりく	各兒苑の手紙を見せ合ふ		寒中は參拜月一回	備 考

年少組

季節	週	主 題	計 画 及 び 材 料	期 待 效 果	備 考
1	およばれ			1. 生活訓練 2. 親しみの心	各児の知つて居る唱歌を自由にうたふ

三 月				月	
4	3	2	1	4	3
お誕生祝	小さいお友達のお別れ	のりもの展覧會(男)人形あそび(女)	雛祭り	お誕生祝	雛祭り 紀元節
同前月	1. 贈物用意 2. 茶菓の接待 3. 餘興練習 (手品・お話・唱歌・遊戯等)	各児ののりもの完成 展覧會 各々人形の諸道具を揃へる	同前月	同前月	1. おまつり 靖國神社おまつり 2. 1. お雛様のおかざり お供物 お客様招待の用意
同前月	年少者に對するやさしみ及び幼稚園生活最後として思ひ出にいろ／＼の發表をなす	完成のよろこび	同前月	同前月	1. 建國の精神を感得す 2. 1. 床しい國民性の感得 年中行事に對する興味 生活訓練
三月生れの者		展覽會に陳列せる物は保育修了式後に持参せしむ		二月生れの者	小學校祝賀式參加 女兒中心 男兒お客様 當幼稚園卒業の一年生を招待す

月 五				月 四				季節	
4		3	2	1	5	4	3	2	週
遠	お誕生祝	靖國神社		お端	お誕生祝	天長節	靖國神社		主
足	同	3.	2.	1.	2.	1.	3.	2.	1.
1. 園外保育	前月	お池づくり(砂遊び)		お祭りの日の用意(唱、遊)	唱歌練習	国旗製作	お花見	春のお祭り	計画及び材料
3.	同	2.	1.	3.	2.	1.	3.	2.	1.
2. 自然に親しむ(観察)	前月	各項目との連絡(特に観察)		我が国古来の風習を偲ぶ 年中行事に對する興味 唱歌	唱歌	國家的のお祝ひをよろこび むかへる	私達の幼稚園と靖國神社	皇國的信念を養ふ 生活訓練	期待効果
1. 心身を鍛練し、快活なる氣分に浸させる 保護者と一同揃って出かける喜び	五月生れの者	参拜(毎週月曜日) お散歩(参拜のかへりに)			四月生れの者	本校祝賀式に参加	参拜(毎週月曜日) お花見(境内のみ)二回 年長組とは別行動		備考

九		七			六			
2	1	3	2	1	4	3	2	1
の お 祭	筑 土 神 社	靖 國 神 社	夜 神 樂 坂 の 店	七 夕 祭	お 誕 生 祝	夜 神 樂 坂 の 店	箱 庭 (男 女)	靖 國 神 社
3. お まつ り (同 年 長 組)	1. 有志で年長組のお手傳ひ 2. おみこしもみ 3. おまつりごっこ	1. おまわり	1. 賣品のお手傳ひ 2. 買手になつて	1. 七夕祭のおかざり(手技) 2. おまつり	同 前 月	1. 年長組のお手傳ひ (繪本のりゑ)(手)	1. 共同製作にてかべかけ(手) 2. 同年長組のを模して(手)	1. おまわり 2. お散歩 3. まゝごと
5. 各項目との聯絡	1. 産土神に對する敬慕感謝の 念 2. 生活經驗發表 3. 實生活の興味 4. 共同生活のよろこび	同 前 月	同 前 月	1. 年中行事の興味 2. 美感の養成 3. 各保育項目との連絡	同 前 月	1. 生活訓練 2. 社會生活興味	1. 共同製作興味 2. 完成の喜び	同 前 月
同 年 長 組		おまわりについて特に注意		小學校には參加せず	六月生れの者			參拜(毎週月曜日) お散歩(おまわりのかへり) まゝごと(境内で)

十		十					月		季節		
2	1	5	4	3	2	1	4	3	週		
靖國神社	明治節	お誕生祝	靖國神社			遠足	運動會	お誕生祝	お月見	靖國神社	主題
1. おまわり 2. おまつりごっこ完成 3. 前月よりの製作完成	祝賀式参列	同前月	1. おまわり 2. 秋のお祭り 3. 製作つりき(同月より) 4. おまつりごっこ お手つだひ (同年長組)	1. おまわり 2. 秋のお祭り 3. 製作つりき(同月より) 4. おまつりごっこ お手つだひ (同年長組)	1. おまわり 2. 秋のお祭り 3. 製作つりき(同月より) 4. おまつりごっこ お手つだひ (同年長組)	1. 幼稚園運動會ごっこ 同年長組 参加	同前月	1. おまわり 2. 虫とり(男)まごこと(女) 製作(男)いいてふの木 開始(女)もみちの木(手)	同前月	1. おまわり 2. 虫とり(男)まごこと(女) 製作(男)いいてふの木 開始(女)もみちの木(手)	計畫及び材料
1. 社會生活興味 2. 観察 3. 完成のよろこび	同年長組	同前月	1. 秋の自然観察 2. 生活經驗の發表 3. 共同作業のよろこびと完成 のよろこび 4. 各項目との聯絡	1. 秋の自然観察 2. 生活經驗の發表 3. 共同作業のよろこびと完成 のよろこび 4. 各項目との聯絡	1. 秋の自然観察 2. 生活經驗の發表 3. 共同作業のよろこびと完成 のよろこび 4. 各項目との聯絡	1. 體育 2. 生活訓練 同年長組	同前月	1. 観察 2. 手技 同年長組	同前月	1. 観察 2. 手技 同年長組	期待效果
幼稚園の お姉様お兄様につれられて	明治神宮参拜には参加せず	十月生れの者	同年長組	同年長組	同年長組		八月十五日以後 九月生れの者	小學校には参加せず		年長組の神社模型とおもむき なかへ二本の樹木のみを完全 に自然の紅葉にまで發展させ る	備考

月 一			月 二 十				月 一			
3	2	1	4	3	2	1	4	3		
お誕生祝	紙箱の家	郵便ごっこ	お正月遊び	お誕生祝	皇太子様 御誕生奉祝	歳末 大賣出し	防火演習	お誕生祝	靖國神社	七五三祝
同年長組	1. 各見空箱を利用し、家商店 其の他の製作	1. ゆりゑ(エハガキ) 2. 通信あそび	1. かるたとり 2. 双六遊び 3. たこあげ	同年長組	同年長組	1. 同年長組の部分のお手傳ひ 賣品製作(手)	同年長組	同前月	1. おまわり 2. 落葉ひろひと製作 3. 境内の観察	同年長組
同上	1. 観察 2. 手技	同右	1. 新年をむかへたよろこび 2. 生活経験発表	同上	同上	1. 社會生活興味 2. 生活訓練 3. 各項目との聯絡	同上	同前月	秋の自然観察	同上
同上	二月末までつらく			十二月生れの者	同上		同上	十一月生れの者	一日くんと變つて行く境内の様子は見逃さぬ様度々出かける	

月 三				月 二				季節
4	3	2	1	4	3	2	1	週
お誕生祝	おわか様 お姉様 お兄様	紙箱の家	雛祭り	お誕生祝	紀元節	紙箱の家	まめまき	主 題
同年長組	2. 1. 余 興 贈物製作(手)	2. 1. 同前月つりき 完成及び總合 (街らしくならべる)	同年長組	同 前 月	1. おまつり	同 前 月	まめまき	計 畫 及 び 材 料
同 上	2. 1. 組になる喜びを祝ひ合ふ 年長者に對する思慕 年長者の卒業と共に大きい	2. 1. 同 前 社會生活興味 完成のよろこび	同 上	同 前 月	同 年 長 組	同 上	家庭年中行事の興味	期 待 效 果
三月生れの者		同 前 月		二月生れの者		三月末までつりく		備 考

本年度保育實習科卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は昭和十二年三月左の二十四名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます。皆それ〴〵適當な働き場所を得て斯界の爲熱心にその職に従事し度い希望にもえてゐます。御採用を願ひます。

氏名	出身學校	生年月日	氏名	出身學校	生年月日
池端ミヅ子	熊本市立高女	大正八年二月三日	竹中 澤子	東京櫻陰高女	大正七年九月二日
小丸 ユリ	福島縣立相馬高女	大正七年九月二十九日	土子 松枝	東京女高師附屬高女	大正七年六月三十日
大瀧 朋子	茨城縣立下館高女	大正八年三月二十五日	馬場 啓子	群馬縣立前橋高女	大正九年三月十四日
菅野ミチ子	東京女高師附屬高女	大正八年二月一日	日高 テイ	大連神明高女	大正七年十月十六日
岸 友子	福島縣立福島高女	大正九年二月二十四日	福圓 薫子	東京女高師附屬高女	大正七年十一月十二日
酒井 綠	和歌山縣立和歌山高女	大正七年十二月三日	町田 行子	東京府立第三高女	大正八年三月六日
柴崎百合子	東京立正高女	大正七年十月七日	三浦 シヅ	東京櫻陰高女	大正七年八月二十二日
下田 八重	東京府立第六高女	大正八年一月二十日	宮田 國子	大分縣立中津高女	大正七年一月三日
諏訪 春子	東京櫻陰高女	大正八年三月十二日	山口 百代	千葉縣立千葉高女	大正七年五月二十七日
田谷 ヨシ	東京府立第三高女	大正八年一月十二日	山根 敏子	東京女高師附屬高女	大正七年七月十九日
高瀬 妙子	東京櫻陰高女	大正七年十二月二日	横瀬 末子	東京府立第五高女	大正八年一月七日
竹内 和子	廣島縣立三原高女	大正七年七月二十八日	若山 美榮	廣島女學院	大正八年一月五日

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ融出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)
 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月	五分	參拾五錢
半年	二分	壹圓拾錢
一年	一分	貳圓拾錢
拾貳册	拾貳分	貳圓拾錢
拾貳册	拾貳分	貳圓拾錢
拾貳册	拾貳分	貳圓拾錢

特等面一頁二角五分
 等面一頁一角五分
 金拾五圓御斷
 神田區駿河臺ノ三品田
 廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
 昭和十二年二月十三日印刷納本
 昭和十二年二月十五日發行
 幼兒の教育 第三十七卷 第二號

不許複製 禁止轉載

發行所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 編輯者 倉橋 惣三
 印刷者 柴山 則常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 倉橋 杏林
 東京市本郷區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番

規定文注

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます(郵券代用の場合には總て一割増)
 一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます
 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます

到殺文註

文部省令 昭和十二年一月二十七日發令
昭和十二年四月一日ヨリ實施

日本學校衛生聯盟著

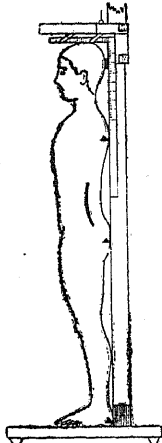
四六版二百五十頁定價一圓五拾錢
說明插繪寫真多數送料八錢
模範表類二十餘枚

十二年新改正學校身體檢查精義

最良最精確
正改身體檢查指針

▲身體檢查は先づ本書から
▲本書一冊萬事解決の寶典
▲東洋魂の出版

身長及今同新に加
へられたる坐高の測り方の注意



大附錄
坐高測定模範掛圖
(坐高測定示)

【次目客内】

第一編 緒論	第一 身體檢查の教育的意義	第二 新改正の趣旨	第三 新に學校身體檢查規程制定の理由	第四 程の解釋
第二編 本論	第一 坐高測定法	第二 身長測定法	第三 胸圍測定法	第四 視力測定法
第三編 餘論	第一 身體檢查成績の利用	第二 健康相談	第三 特別學校の編制	第四 特別身體檢查
第四編 附錄	第一 職業指導と身體檢查	第二 就學の身體檢查	第三 特別身體檢查	第四 特別身體檢查

文部省學校衛生官 大西永次郎 先生著

學校衛生原論

文部省學校衛生官 吉田章信 先生著

學校身體檢查法

本書は専ら身體検査の利

現代學校衛生のあらゆ

文部省學校衛生官 體育研究所技師 文檢委員 醫學博士

本書は専ら身體検査の利

東洋圖書株式會社發行
東京市神田區神保町一丁目 電話 五三〇七
大阪市區南區安土町 電話 九三五六
三橋 電話 五三〇七
大坂 電話 五三五六

お子様の満悦100%の手技用品

及 表 簿 類

◇ 菱形 — 赤白草三色の菱餅を重ねたやうな厚紙蓋紙に、チリメン摺紙で
 雜を折つて貼ります。 菱 形 五十枚 金一圓五十錢

縮 紙 { 大 15cm x 15cm 一〇〇枚包一把 金五十錢
 摺 紙 { 小 12cm x 12cm 一〇〇枚包一把 金三十錢

◇ 屏風形 — 雜祭り又はお人形遊び用、金屏風の華麗なもの、これに貼紙
 の櫻その他を以てお子様方に美事な意匠ができます。 五十枚 金一圓五十錢

◇ 繪馬額 — 厚紙で作つた繪馬額、クレオン貼紙等でお子様御自身が
 ろく意匠する大歓迎の手技用品。 五十枚 金一圓

◇ 保育證書 — 厚い堅緻な上質紙に文字を墨、周圍輪廓を金刷と優雅な色
 刷にした新圖案のものとなり、そして姓名年月日を書き入れるやうにな
 つてゐます。御園名入のものは二月末日迄に御注文、無名ならば何枚に
 ても即時お間に合ひます。

御園名入の保育證書
 二月末日迄
 に御注文下さいませ

- 一〇〇枚園名入 金 四圓
- 五〇枚園名入 金 二圓五十錢
- 無名一枚 金 五錢
- ◇ 出席簿用紙 一〇〇枚 圓
- ◇ 豫定案日誌 一册(一年分) 圓
- ◇ 在籍簿用紙 一〇〇枚 金一圓二十錢
- ◇ 月謝袋 一〇〇枚 金八十錢
- ◇ 出席カード (十二枚一組) 金一圓四十錢
- (一人一ヶ月分) 金十錢



株式會社 ฟูベール食館

社 本 所 張 出
 東 京 神 田 二 町 保 神 (33) 電 話 三 三 六 六 二 番
 大 阪 東 區 備 後 五 町 (34) 電 話 一 九 三 八 七 番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
 (毎月一回十五日發行)

昭和十二年二月十三日印刷納本
 昭和十二年二月十五日發行

定價三十五錢